

三商同窓会報



No.53

平成26年7月1日発行

ホームページアドレス

<http://tcsaa.jp/>



Picture by KENJI MIZUKAMI The 26th class

ご挨拶

二期目の期首にあたって



同窓会会長
第26期 岩瀬 和子

同窓生の皆様いかがお過ごしですか。

平成24年柴崎会長より、その任を引き継ぎ二年が過ぎました。二年間つつがなく過ごせたのも皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたしております。ありがとうございます。

昨年、同窓会結成が80周年を迎え、記念事業として同窓会のホームページを立ち上げ、ホームページ委員の方々によるご尽力で素晴らしいホームページが出来ました。

同窓会をご存じなかった同窓生の方や若い期の同窓生の方に輪が広がり、大変良かったと思っております。

そして毎年行われている校歌祭も、140余人のご参加をいただき「100人で校歌、応援歌を歌おう」という長年の念願が叶い、本当にありがとうございます。

その後の祝賀会も盛大にそして和やかに行うことが出来ました。嬉しい誤算で予約人数をオーバーしたため、升やお菓子が行き渡らなかつた方がいらしたかもしれません。申し訳ありませんでした。

これも皆様のお声掛けのお陰と思っております。本当にありがとうございます。

さて本年六月七日には、平成26年度の年次定期評議員会が開催されました。役員全員が任期満了を迎え、私は前期に引き続き会長の大役を承ることになりました。どうぞよろしくお願い致します。

役員名簿をご覧いただければおわかりと思いますが、新任評議員に新卒81期のほか、各期より15名の方が選任されました。今後は若い期の理事を増員したいと思っております。

最初、評議員としてご活動いただき、その中で理事としてご活躍いただける評議員の方は、ぜひ来年理事になっていただきたいと考えております。

特に女性の理事を増員したいと思っております。ご協力いただける方、よろしくお願い致します。

今期も引き続きご支援ご協力をおよせいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

同窓会 80周年記念祝賀会にて



同窓会 80周年記念祝賀会にて



三商同窓会報 第53号 CONTENTS

1	ご挨拶	岩瀬会長・浦部校長 杉本事務局長・三浦副会長	15	同窓会活動報告	定時評議員会 役員紹介	33	セカンドライブ第二ステージを我が儘に楽しむ	29期 大川幹雄
2	同窓会 80周年祝賀会・校歌祭				26年度事業計画	34	論語とソロバン(算盤) - 渋沢栄一に学ぶ企業と社会的責任 -	22期 荻野弘康
3	母校改装完成見学会		16		定款変更	35	三商 INFORMATION SUN 商タイムス	
5	各期活動報告				校歌祭のお知らせ	36	水上健二氏作品紹介	
	10期 6組	荻野文雄			会計報告		ホームページ紹介	
	29期	大川幹雄	18	東京三商会のご案内	会館建設		校歌・応援歌	
6	19期	森 莞			建設概要		編集後記	情報委員会 篠崎 清
	19期	細田安治			財団概要			
8	23期	小暮 清	19	広告のページ	寄付について			
9	17期	飯田幸男	27	同窓生エッセイ				
10	26期	古田勝一			一都七県それぞれの出会いと思いで			
11	49期	岩瀬茂幸			29期 寺嶋祐三			
	33期	佐久間保人	29	戦時下の先輩から受けた薫陶	14期 奈良部光孝			
12	22期(パッション会)	斎藤 稔			10期 荻野文雄			
	22期	篠崎 清	32	私の昭和史	19期 中村三郎			
13	24期	福原伸行						
14	有志の会活動報告	三水会 土方敏之						
	同期会開催案内	25期・52期						
	三商祭のお知らせ							

表紙の絵

『時の旅人～風の吹き抜ける水辺』

油彩 F100号

作者 水上 健二

26期

群炎美術協会 事務局長

P36に水上健二氏の画歴と他の作品をご紹介します。そちらも併せてご覧ください。

校舎の改築及び改修工事を終えて

校長 浦部 利明



改築の報告と現在の三商について説明する浦部校長先生

平成24年9月に始まった校舎の改築及び改修工事が完了し、5月の連休後に新しい校舎がリニューアルオープンしました。昭和57年に斬新なスタイルで新築された教室棟と体育館棟、プール棟は大規模改修され真新しい姿に生まれ変わりました。また昭和44年に新築された実習棟は、新たに5階建ての校舎として改築されました。これまでの仮設校舎とは施設・設備や仕様、さらに床面積が大違いなので、引越してきた教職員・生徒ともに大喜びです。授業中の生徒の表情も、何となく明るく楽しそうに見えてきます。

そうした中、5月18日(日)に同窓会の皆さんと共催して校舎見学会を開かせていただき、旧校舎(いわゆる時計台校舎)で学んだ同窓生の方を中心に、70人以上の皆さんにご参加いただきました。参加した皆さんを校舎内各所ご案内したところ、一番喜んでいただいたのは屋上から見たウォーターフロントの眺望であったと思います。東京タワーと東京スカイツリーの両方を遠望できる(仮称)三商パワースポットで、友人どうしやクラスごとに仲良く記念写真を撮る姿を拝見し、同窓会の皆さんの絆の深さや強い仲間意識を間近で感じることができました。また、案内役をつとめたラクロス同好会の1・

2年生の女子生徒にも、大先輩の方々から温かい言葉をかけていただき、心から感謝申し上げます。

さて、創立87年目の年に校舎のリニューアルオープンを迎え、気持ちを新たに三商の舵取りを進めていきたいと考えます。日進月歩のビジネス社会に対応するため、本校でも様々な創意工夫を重ねていますが、時には試行錯誤の連続ではないかと自省することもあります。それでも、本校の生徒たちが社会に出てから活躍できるように、さすがに三商の卒業生だと認めてもらえるように、教職員一同最善の教育活動を続けていく所存です。つきましては、これからも同窓会の皆様からのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会事務局より



同窓会事務局局長
第26期 杉本 光男

同窓会事務局を仰せつかっております杉本です。平成19年より同窓会事務局としてやってきました。が、年々事務量が増えてきております。それだけ同窓会の活動が活発に行われていることだと思います。

同窓会の事業としては、「三商同窓会報」の発行、東京校歌祭への参加、母校への支援活動、同期会、クラス会開催のお願い等がありますが、これらを行うために連絡名簿が必要なのですが、同窓生の名簿が個人情報保護法の関係で手元にあまりないのが現状です。一昨年あたりからいろいろな方法で名簿集めをしています。これの事務量が大変なので、いま財団の職員である2人に手伝ってもらっています。

名簿ばかりでなく、同窓会の事務、会計までお願いしているあります。同窓会事務局もこの秋に財団の会館が出来れば、そこに移したいと思っています。そうなれば同窓会事務局ももう少しよくなると思いますのでご期待ください。

同窓会の楽しみ方



同窓会副会長
第31期 三浦 康二

私達三商同窓会も、最近では多くのクラス会や同期会で、盛り上りを見せております。特に今年は母校も新築と改築で、近年にはなかった視聴覚室や商業ビジネス主体の実践教室等も新しく出来上がって、これから三商の発展につながるものと確信をしているところです。

三商同窓会が母体で昭和39年に発足以来、三商生の育英奨学金を支給して半世紀となり「公益財団法人東京三商会」が50年の歴史の節目として、今年の11月初旬に母校三商にほぼ近くの江東区牡丹1丁目に4階建ての「三商会館」が竣工いたします。

母校の浦部校長をはじめ教職員の先生方、そして在校生も大喜びの中で完成を待っております。

この「三商会館」はクラス会や同期会の打合せや諸会合、そして会議等にも出来るように設備され、在校生や地域の人達にも利用できるようなようになっており、私達三商同窓会としてこれからの活性化に向けて大いに期待するところです。

三商同窓会の皆様にも、昨年の80周年記念に引き続き、大いに同窓会で楽しんでいただきたいと思います。

同窓会80周年祝賀会・校歌祭

府立第三商業学校創立から五年後第一期生が時計塔校舎から巣立った一か月後に、三商同窓会はその産声をあげました。学校と共に様々な荒波を乗り越え、昨年ついに八十周年を迎える事が出来ました。

八十周年の節目にあたり、ホームページの立ち上げと、この校歌祭・祝賀会が大きなイベントとして位置づけられていました。

毎年、名だたる参加校の中でも動員数で上位に立つ三商同窓会ですが、二桁の域を出る事が出来ず、いつからか「百人で校歌・応援歌を唄おう」が合言葉となっていました。

さて当日の十月五日、あいにくの小雨模様にも拘わらず、集まった同窓生は百四十一人!! ホームページ立ち上げなどで増えた人脈が功を奏し、大幅な目標越えで、取り壊し決定で最後となる日比谷公会堂に盛大に歌声を響かせました。

困ったのが祝賀会。ほとんどの人がそのまま参加となったため、多少の余裕を見て会場となるお店を確保したものの、明らかな人数オーバー。執行部は頭を抱えましたが、すし詰めの中で祝杯をあげ、その方が熱気に包まれた、楽しい会となり、大いに盛り上がったのでした。



建物脇で、雨をしのぎながら音合わせ。
どうしても人が溢れてしまい、後ろの喫茶店の人に苦情を言われながら練習です。



あいにくの雨模様、続々と人が集まってきます。
長年会場とされた日比谷公会堂も最後の会となりました。
今年は新たに杉並公会堂で行われます。(P16 参照)



この迫力! 参加21校中最大人数での合唱。
これだけ引かないと、全体が写りません。



写っているのは、会場の一部ですが、混雑ぶりと熱気が伝わってくると思います。

祝賀会場には、浦部校長先生や江東区長をはじめ、多くの来賓の方もお集まりいただきました。

母校改装完成見学会



母校見学会を終えて

オールド世代のシンボルだった、時計塔校舎から今の校舎になってから、はや三十二年。昨今不安視されている大地震への対応も含め、二年半の年月をかけ、我が三商がさらに生まれ変わりました。

三十年前の旧校舎から新校舎への移行工事は、越中島通り沿いに建つ旧校舎の反対側、つまりその昔、短大があつた川岸に建築されたため、旧校舎は四十九期が卒業するまで使用されました。

今回は、改装がメインと言う事で、工事期間中は大規模なプレハブ校舎が建てられ、そのほとんどをプレハブ校舎で過ごした世代の方もいらして、不便な学生時代を送られたかと思えます。

しかし、ここによく完成したばかりのニュー三商を見てみると、浦部校長先生にご相談したところ、快諾を得ての見学会となりました。

当日はご覧の通り好天に恵まれ、目にも眩しいくらいに校舎の上は17期から今春卒業した81期まで、幅広い世代の人が集まりました。

案内をしてくれるのは、創設されたばかりのラクロス同好会の生徒の皆さん。顧問の宜保先生と一緒に休日の中、駆けつけてくれました。ほとんどが、先輩と言われてもピンとこないほど年代の離れた先輩たちに囲まれても、物怖じせず明るく案内してくれた現役生たちに感謝、感謝です。

まったく今の校舎に馴染みのない世代でも、壁の黒板や机の並ぶ教室、靴音の響く体育館に来ると、遠くに置いてきた青春の記憶が戻ってきているようです。すべての人が、笑みをたたえ、興味深く各施設を見て回りました。

今後も同窓会としては、「幅広い世代が楽しめる」そんな催しを考えてまいりたいと思っております。



正面玄関横の通路にて



校長室に置かれた旧校舎紙製模型



富岳の雪は望めなくなったが
東京タワーと貯木場は変わらず



← 出発前、挨拶をする岩瀬会長



→ プレハブの仮校舎と狭い校庭



→ 普段立入り禁止の屋上も開放



← パソコン実習は現代の必須科目



→ 横山先生の木像と栄光の歴史を物語るトロフィーの数々



→ 商業実践室は今どきのおしゃれなおフィスのよう



← 体育館も改装でピカピカです



← 懐かしさ溢れる一般教室



→ 図書室は、張り出したテラス窓のお陰で明るい雰囲気



→ 最後は、案内役の生徒さん達を労い、昼食会が開かれました

同 期 会
開 催 報 告

十期六組クラス会

第10期 荻野 文雄

十期六組クラス会が平成25年9月21日正午、埼玉
県越谷市の小料理屋で開催。

東京、神奈川、千葉から級友が集い、初秋のひと時
を楽しんだ。

有朋自遠方来不亦楽乎（友アリ遠方ヨリ来ル、マタ、
楽シカラズヤ）。

旧友と酒食を共にし、気俎に語り笑うことは老境に
とって無上の愉悅である。

従来、クラス会は太田誠一君が主宰して神田一ツ橋
の如水会館を恒例としてきたが、障害をもつ同君の
希望で居住地での開催となった。

挨拶で、「二、三名でも越谷で開きたい、と言われた。
目と足が不自由な身にして此の心意気あり。

発言を拾う。井戸君は一ツ橋大学バレー部監督時
代のエピソード。森君は東京府南葛飾郡小松川町の
小学校からの異色ある秀才の憶い出。太田君は三商
卒業時の同級生61名の姓名を朗々と唱えた。安村君
は兵隊として体験した終戦時の北朝鮮の状態。荻野
は吾が思い出のメロディーは入営の壮行会で近所の
おばさんが饒（はなむけ）として歌った小唄勝太郎
の「明日はお立ちか」であること。

二時半、再見を約して散会。

出席者五名
井戸武一郎、太田誠一、森 正俊、安村吉之助、
荻野文雄。

第二十九期同期会開催報告

第29期 大川 幹雄

若き時代の思い出を懐かしむため、第三回、卒業
満五一年及び会員の古稀祝賀会を兼ねた第二十九期
同期会が平成二五年十一月一七日（土）、東京都中
央区銀座「ライオン銀座クラシックホール」で開催
された。前回まで慣れ親しんだ銀座のホテル会場が
震災関連

で使用不
可となり、
参加の便
および二
次会場の
都合等で
同じ銀座
地区が良
いとの会
員の希望
を受け、経
済性を考
慮しなが
ら探した。
事務局として健康保険では高齢者扱い入りをした
年齢の事や、伝えられる近況等から前回並の参加者
約百名確保は無いだらうとの見込みにより会場等
の設営をした。参加申込を締切ると嬉しい誤算で、
参加者数は当日の飛び込みも含め前回は一割上回
る百十一名の紳士淑女の参加を得て開催となった。
参加人数が多いので直前での会場変更も不可能で
あり、参加者には多少の不便は飲み込んでいただく



壇上挨拶する、筆者大川氏

ことをお願いしての開催となった。しかし会場内の
手狭感否めず、それが一層スキップが深まっ
てか熱気あふれる雰囲気、参加者の楽しい歓談が
途切れず、毎回担当で手馴れた司会進行役も、予定
通り進めるのに悩むなど、幹事一同嬉しい悲鳴が続
いた。

卒業五一年を超えても久しぶりの参加者が多くおら
れ、年代的に亭主・子供・孫等のお世話も一段落し
てか、自分の時間に余裕の出たと思われ女性
陣の元気が際立ち、在籍に対する参加率は男性を
上回る四六名の多くを数え、女性の時代到来を我が
同期会でも感じた。卒業時クラスごとに宴席での受
付としたことで、席に着くと周りには十八歳の学び
舎時代の顔が瞬時に蘇り、各テーブルとも挨拶を交
わすなり一挙に時計台校舎時代の楽しい話が弾んだ
ようである。話題として多かったのは我々世代の会
合の常である、お互いの健康を尋ね、それぞれに抱
える体調報告、服用する薬、孫自慢、趣味、旅行、
参加できなかった仲間の消息等の話で盛り上がった
よう、飲食を楽しみながら予定の二時間があつと
いう間に終わった。

今回の古稀記念品には最近シニア世代の会合で話題
に多く出る「断捨離（だんしゃり）を進めている」
とのことを考えて準備した。卒業五一年も経つと三
商卒業時のアルバムが「どこにあるのか」、あつて
もなかなか「見る機会がない」、「身の回りの整理を
はじめると昔の分厚いアルバム類は処分する」、
これらを感じておられる方も多いのではと幹事会で
検討、同期生の多くがこの機会に改めて昔を懐かし
む気持ちのゆとりを持って頂ければとの期待をし
て、五一年前のご自分および仲間の写真をコンパク
トにと、卒業アルバムをCD化して準備した。今回

のCD準備にあたり、同窓会仲間の三三期佐久間氏、四九期岩瀬氏、並びに同窓会事務局白石さんのご奉仕ご協力を頂き、卒業アルバムに校歌・応援歌入でCDのお土産とすることができた。これについて

では参加者から大変好評で、ご協力の皆様のおかげと厚く御礼申し上げます。

各テーブルで、参加常連者のうち、今回は病床にあり、ご家族の援助で治療生活に居られると

の不参加会員の報告がいくつかのクラスであり、三クラスで急遽お見舞い・激励の色紙寄せ書きを行った、後日記念写真および卒業記念アルバムCDを添えて事務局からお送りした。その後それぞれのご本人・ご家族から厚く感謝との返信を頂いた。

今後の同期会開催について、残念ながら恩師及び会員の物故者が増えてきたが、是非とも残された会員で今後も従来同様二年置きに開催し、楽しい会合を続けることを申し合わせた。五組伊藤茂君がクラスごと宴席スナップおよび記念集合写真として、楽しい雰囲気をとらえ、次いで六組伊藤武志君のタクトで校歌および応援歌を声高らかに斉唱、最後に次期会長の三組寺嶋君のユーモラスな閉会挨拶で締め



29期同期会 於、銀座ライオン

た。幹事陣が総力を挙げて同期会盛り上がりを演出した、これにはそれぞれ感謝。感謝。参加者は後ろ髪を引かれる思いで会場を後にして、各クラスともお楽しみ其の二の二次会三次会のため銀座の名店に散り、参加者一同余韻を残しながら夜遅くまで親交を深めた模様であった。次回も多くの旧友と集えることを祈念したい。

第十九期同期会開催報告

第19期 森 莞



好天に恵まれた5月16日、母校と同じ区内の「ティアラこうとう」で19期の同期会を開催しました。今回は全員80歳を迎えたので傘寿の会として皆様に呼びかけました。出欠の返事のない方には、幹事

が担当して電話で誘い、又一部の方には自宅訪問をしてお誘いしました。その結果37名の出席で開催いたしました。振り返れば昭和33年4月13日第1回の同期会を開催した時は120名以上の参加者があり、其の時に今後は3年に一度開催することが決まりました。あれから56年たちましたが今回、其の時の三分の1の方が出席したのは非常に喜ばしいと思います。それだけ皆さんが元気である証でしょう。この分では米寿の会も元気でにぎやかに開催出来るのではないのでしょうか。

細田君の司会で開演し、乾杯の音頭を木村君で宴に入り、思い出話や家族の話に花が咲き、校歌と応

援歌を合唱し、大々で終了、二次会をカラオケ組と懇談組に分けて学生時代の思い出の地、門前仲町で川名君の知り合いの飲食店で大いに騒ぎ無事終了した。

第一回の19期の時3年に一度開催と決めましたが、今は毎月19日に両国の大関庵に集まっています。いかに19期の同期会の絆が深いかを証明しています。

都立三商十九期『傘寿の会』幹事一同

文責 第19期 細田 安治

第一回十九期同期会として開催したのは昭和33年、母校三商創立30年記念式典の年。以来営々と今日まで、歴代会長はじめ幹事諸兄のお力添えにより今回で何回かな？長年幹事でお世話願った中野貞三君に聞いたが「記録も記憶もない3年に一度と計算しても」なので、ここから先は筆者が勝手に計算、昭和33年から平成26年まで数えて57年間、単純に3で割れば、オヤオヤ偶然にも我々が卒業期と同じく第19回となる。19期会は19回目の同期会を迎えたことになる。しかも元気で八十歳を迎え、目出度く「傘寿の会」と銘打ち開催することになった。こんな目出度いことはない。あれもこれも同期の皆様のおかげの良さと存ずる次第だ。ところが残念なことに、長年お世話願った中野貞三君が諸般の事情により幹事を辞退された。同君の今までの御苦労に対し一同心から感謝申し上げる。後任には森莞君にお願いし、幹事、有志の協力により目出度く開催する事が出来た。これも、十九期「同期の桜」の一致団結があったからこそと、幹事一同、感謝申し上げます。前回は(平成24年)の参加者は44名、今回少なくとも前回並みの出席者を目指して一同手分け、郵便通

知、電話勧誘作戦、最後は極め付きの訪問作戦が功を奏し申込者37名までこぎつけた。会場の選定では、元区議会議員の川名省三君にお世話願ひ広い会場を確保、着席スタイルで傘寿の旧友に配慮した。写真撮影で毎回終了後リラククスしたところで記念撮影となるが、今年は式典が始まる前のやや緊張した夕イミングで行った。このほうがすつきりする。次回からこの方式がよろしいようだ。



開会の前に撮った記念撮影

傘寿ともなれば、ハプニングはつきもの、歳の順で挨拶する予定の安藤日出男君が来られなくなり、急遽、開会の挨拶を予定していた森莞君が引き継ぎ、事なきを得た。開会に先立ち前回の平成24年以後鬼籍に入られた五名の方に（新井英司、岩井繁、小林邦夫、竹内巳喜男、長谷川雅美）黙祷を捧げた。

都立三商19期

『傘寿の会』

平成26年5月16日（金）

於・ティアラこうとう

午後2時開始

東京都立第三商業高等学校19期会

会 次 第

受 付 小野正実 岡野静夫

司 会 細田安治

開会の言葉 森 莞

全員黙祷

物故者 新井英司、岩井繁、小林邦夫
竹内巳喜男、長谷川雅美

一、記念撮影 木村滋男

一、幹事代表挨拶 森 莞

一、乾杯 木村滋男

一、懇談

一、近況報告

一、校歌・応援歌斉唱 伊藤昭雄

一、万歳三唱 谷口博三郎

一、大々 川名省三

一、閉会の言葉 藤井孝保

出席者

- 荒川幹朗 池本 覚 大村彦次郎 岡野静夫 奥山光弘 小野正実 勝亦 弘 川名省三 木所敬夫 木村滋男 小西照男 関根正伸 鎮目忠生 篠田七郎 島村治伸 鈴木辰夫 砂村俊雄 高橋唯雄 田中 實 谷口博三郎 丹治朝雄 中野 巖 中村三郎 中山峯男 萩倉 諫 平井 直 藤井孝保 古澤健治 細田安治 正井伸也 増田昌弘 増淵義昌 丸山清一 森 莞 渡部康広 伊藤昭雄 計37名

八ガキ出席者の紹介

細田安治様 平成二十六年五月一日

清々しい季節を迎え皆様にはご健で活躍のことと存じます。代表幹事として「傘寿の祝いの会」開催の企画をご連絡を頂き心うれしく存じます。この度は特別の優しいご配慮を頂き電話でのご確認を頂き恐縮です。幼馴染みの同期の皆様も「傘寿を迎える歳」となったのですね長い人生を想うと感慨無量です。小生 最近足腰にしびれを感じ階段の上り下りに不安を感じ歩行に老いを感じております。皆様にご心配をおかけしてはと思い折角の祝いの会ですが欠席とさせていただきます。大岡庵で皆様と幼馴染みの懇談ができるようリハビリに励みたいと努力しております。

幹事の皆様によりしくお伝えください。 多謝
豊島郷駒込村 染井吉野桜の園 庵住 石原博

◇ ◇ ◇
19期会に参加出来なくなりしました。

表記、19期会に出席する様「貴兄等からご助言」を戴き、一旦は何とか駆けつけようと思っておりましたが、改めて下記の事情が生じた為、やはり無理と思慮するに到りました。

記

小生の5月16日（金）午後の予定

1、午後1時30分から墨老連26年度総会、理事会、関連部会役員改選（広報副部長留任）。

2、上記が終了するのが「午後3時半から4時頃」で、終了次第江東ティアラに駆けつけ、2次会には参加する予定であった。

3、本日、小生が副幹事長を仰せつかっている両国相撲甚句会を中心とする「全国相撲甚句会第9回全国大会を、10月18日（土）に江戸東京博物館ホールで開催する」事が決定し、その実行委員会を16日の午後6時から開催することになった。

4、上述【2】の様に、少なくとも2次会には参加したいと思っておりましたが如何しても調整できません。つきましては、事情ご斟酌賜りご寛恕の程お願い申し上げます。

げます。

26・5・5

墨田区大平1-22-7

伊藤昭雄

三商十九期『傘寿の会』にご出席の皆様へ

皆さん こんにちは

傘寿 おめでとうございます

私も出席したかったのですが、昨年決めたスケジュールで

本日は福井県小浜市にきています

私は昨年で世話人を辞退させていただきましたが、昨

秋この『傘寿の会』を聞いて辞めさせていただきたかった

のですが、残念です

願わくば 皆さんの大半が数え年で八十八才になる 六

年後の平成三十二年に米寿の会を聞いて欲しいと思いま

す。その時は万難を排し一肌脱ぎたいと考えています

その時迄 ご機嫌よう

中野貞三

一言発言のテーブルスピーチ

1. 大村彦次郎

三商の第八期卒業生の中に、田村隆一、北村太郎、

加島祥造という、三人の有名な詩人がいる。戦後間

もなく詩誌「荒地」に集結した。田村は大塚鶏料理

屋、北村は浅草の蕎麦屋、加島は神田のラシャ屋の

息子。在学中に国語の教師で、児童文学作家の佐藤

義美先生の指導を受けた。このうち加島さんはいま

なお信州伊那谷にご健在で、老子学の権威でもある。

幸い、私は、この三人の先輩の警咳に接することが

できた。

2. 岡野静夫

先生、上司、先輩、仲間に恵まれたことを感謝します。

今、大変幸せな生活を送っております。

以上

思い起こすと、昭和21年「終戦の翌年」三商に入学
しました。

名門の三商、なぜ小生が入学できたか判りません。

終戦のドサクサ無試験で入学できた。以来6年間あ

まり真面目な生徒ではありませんでしたが、良い先

生同僚に恵まれ、卒業できました。

幸い三菱銀行当時「千代田銀行」に就職させていた

だき、夜学で中央大学を卒業したことが幸いしたの

かも。銀行でも上司に恵まれ支店長職まで経験させ

て貰い定年後の今も大関会の同期の友人に恵まれ楽

しい生活を送っております。

3. 関根正伸

関根が二人いて、その一人の関根です。三商卒業後

日経新聞系統の会社に入り様々な立場から世の中を

つぶさに観察することができた。このようにできた

ことはこの上もない幸せだ。今は、日経新聞系のゴ

ルフ場の経営を任されている。ここまで仕事が出来

たのは、三商で学んだおかげだ。ゴルフ場について

何かあったら、相談に乗らせて欲しい。

4. 萩倉 諫

昭和33年第1回同期会の記事別記 森 莞君の投稿
に詳細あり。

◇ ◇ ◇

会はいつ果てるともしれぬほど大変な盛り上がり

だ。ここで嬉しいお知らせが一つ、どうしても都合

がつかず不参加表明の伊藤昭雄君、会の締めくくり

として、校歌、応援歌斉唱の音頭取り、リーダーと

して駆けつけてくれた。ここで、また一つ大いに盛

り上がった。

最後に、川名省三君の大締めで目出度く会はお開き

となり、まだ飲み足らず話足らず。カラオケを歌い

たい仲間の為に、二次会の会場は徒歩数分の距離に

二か所を設けここでも大いに盛り上がった。この設

営も川名省三君にお世話頂いた。旧友に喜んで頂

けたことが、幹事

一同無上の喜び

である。ご協力に

感謝申し上げます。

告を終わります。

尚、次回は次の

干支が目出度く

十二回まわる

八十四歳を目指

し健康で頑張り

ましょう。



二十三期
「喜寿を祝う会」開催される

第23期 小暮 清

平成二十六年三月二十五日(火曜日) 正午より

上野東天紅「平成の間」で開催しました。

七組担任の山田泰義先生をご来賓に迎え、生徒

八十三名が盛大に、七十七歳・喜寿を祝いました。

小暮が司会を務め、関係物故者の冥福を祈って黙禱、

幹事代表二組鈴木君の開会挨拶、ご来賓の山田先生

より

「皆さんが生まれた昭和十二年は、後に日中戦争に

発展した『盧溝橋事件』が起きた年で、それから戦

争の足音が大きくなり太平洋戦争へと進み、戦後の貧しさを味わい、昭和三十一年経済白書に『もう戦後ではない』との文字が発表された年に皆さんは三商を卒業しました。

三十一年の就職環境は良く大企業を始め多くの企業からの募集があり、スムーズな就職活動でありました。

その後皆さんは、ご活躍をされ本日七十七歳・喜寿を祝う会に元気に集まられたことを嬉しく思いお祝いを申し上げます。

との思い出深いお祝いのお言葉を頂きました。また、八十八歳の先生から「私も元気でいる限りこの会には出席します。」との嬉しい宣言がありました。

先生の祝辞から、幼少期から少年期、青年期初めの思い出が走馬灯の様に駆け巡り、特に東京大空襲の時の恐怖と戦後の食糧難が鮮烈に心に蘇ったが、本日、喜寿を祝う事が出来た喜びがじわじわと暖かく身体全体を包み込んでいました。また、三十九年の東京オリンピック開会式の真っ青な空に鮮やかな五輪マークが描かれた事もあわせて思い出されたのは、私だけではないだろう・・・先生への花束贈呈後、二組三浦君の乾杯の音頭で歓談に入りました。

クラス別テーブルで、健康管理や維持、地域社会への参加、ボランティア活動、病气・介護、仕事等々明るく大きな声が飛び交い、祝賀の雰囲気も盛り上がり、いよいよ余興タイムに入りました。余興導入部として、各テーブルより一名舞台上に集合



して、舟木一夫の「高校三年生」を全員で合唱し、ムードがさらに上り纏まりました。第一部・・・カラオケ大会・・・司会・・・四組・・・加賀美君

一組から九組迄のエントリー者十一名が順次歌う方式で始まり、一番バッター・・・一組・星野君を中心に、2013年日本レコード大賞企画賞に輝いた、新沼謙治・・・作詞作曲「ふるさとは今もかわらず」を合唱で歌い素晴らしきトップバッターでした。

前回（平成二十四年三月十一日）開催の本会「支援・元氣・絆の会」の会場で参加者募金を実施、読売新聞社を通じて被災地支援をした事を思い出し、これからでもできる支援をしなければ、との思いを改めさせてくれた曲でした。

その後も会場に近い湯島を題材とした「湯島の白梅」等年代にふさわしい曲が続き、約三十分の第一部カラオケタイムが終了しました。



第二部・・・ビンゴゲーム大会・・・司会進行・・・五組・・・栗山君・栗林君
今回初めての試みで、賞金（図書カード）の第一位から二十一位迄の争奪戦とした。数字の読み上げが続く中「リーチ」の大声が各テーブルから上がり、間もなく第一位の「ビンゴ（大当たり）」者が現れ拍手喝采を浴び賞金が手渡された。その後順調に、出席者の四分の一にあたる当選者が出そろい「スリルとラッキー大当たりゲーム」を溜息交じり中で終了しました。
第三部・・・カラオケ大会・・・司会・・・四組・・・加賀美君

エントリー者の歌が終了後、エントリーしなかったクラスを始め多くの飛び入り歌い手が続出、懐かしのメロディーやクラス単位の合唱あり、等々隠した才能を発揮して、時間不足となる程盛り上がり楽しく元気に喜寿を祝いました。

一休み後、同窓会報告に移り「同窓会会館建設・ホームページ開設等報告」会館建設には高い関心が寄せられました。

最後は、校歌をCD（同窓会事務局より借用）の伴奏で、気持ち良い合唱が大宴会場に響き、大いに盛り上がり全員の元氣度が確認された。

三組岩佐君の中締めで、約三時間半に及んだ楽しい「喜寿を祝う会」もお開きとなりました。我々二十三期は、二年毎に開催しています。

次回につきましては、来年四月の幹事会で決定し、ご通知しますのでよろしくお願ひします。

ちなみに、平成二十八年は「卒業六十周年」・平成二十九年は「傘寿・八十歳」と祝賀が続きます。皆さんの健康年齢の引き伸ばし健康法を実践して、次回元氣にお会いしましょう。

第十七期活動報告

第17期 飯田 幸男

いつ編纂したのかは不明だが第十七期（昭和二十四年三月卒五年制、二十五年三月卒高校第二回）の名簿が出てきた。総員一〇六名（内八名がすでに死亡）今日現在で十七期会員は三十一名。卒業後六十四年経た今日約三分の二の級友が鬼籍に入つたと推定される。残った我々は一日一日を大事に意義ある日々を送らねばと心を新たにしたい。

—この一年の行事報告—

校歌祭、忘年会、グルメの会と例年同様の行事を行った。加齢とともに参加人員は減少傾向にありメンバーも固定化した。酒量も減り忘年会よりもグルメの会の方が集まりが良い。

忘年会 十二月一日(日)いつもの会場がマンネリ化したので今回は足場の良い新橋の「木曾路」で十名参加。昨年五十数年ぶりに参加の内山兄今回も介護の人とともに集ってくれた。大庭兄渡辺(三)兄など十二名参加。

グルメ会 三月二十九日(土)例年どおり門仲の中華料理店「華福寿」で参加人員十名。今年も大横川の桜の満開時を狙って開催したのであるが少し遅かったようである。それでも散り行く桜を惜しみつつ眺めながら帰途に着いた。

校歌祭 十月五日(土)日比谷公会堂にて。参加人員亡き鹿倉兄念願の一〇〇名を関係者の努力により大幅突破の一四〇名。泉下の彼に伝えたい。

この一年、介護施設に入所したり子供たちの家族と一緒にになったという話は聞いたが、幸いに訃報に接しない。この穏やかな日々が長く続くように願っている。

以上

同期会って…
イイーナア!!

第26期 古田 勝一

式次第も順調に進み、「校歌・応援歌斉唱」の段を迎えた。プラスバンドの録音テープは四十六年前、創立四十周年記念式典を九段会館で挙行了た際、客席から録音したもののだけに、ヒドイ雑音…:そんな

ノイズもなんのその、そのポリウムはガンガン一杯に皆、♪都の空は明けたり今♪見よ三商の旗じるし…を大声で歌う…その目は喜びに満ちた青年の目の輝き…中には涙を浮かべながら歌っている仲間もいる…そんな歌声の渦中に居ると、胸に熱いものが込み上げ心が震えるのを覚えた。何たる至福の瞬間か…。

顧みるに、昭和三十四年、あの懐かしの「時計塔の簀えたる校舎」を四七二名で卒業いたしました私ども二十六期生は、社会情勢の幾多の変遷・波濤を乗り越え、本年七十三歳



or七十四歳を通過中であります。還暦を過ぎた六十歳よりは、生涯青春であり続けたいとの願いから同期会を毎年開催して参りました。それも一組から九組まで当番幹事制で…。

昨年、亀戸の「アンフェリシオン」で行われた会は四組が代表幹事でしたので、古岩井勝士さん・川田勝巳さん・高桑昇さん・足利侑弘さん・倉知政規さん・守屋義弘さん・八木稔さん・三好清孔さんをはじめ四組の方々に取り仕切っていただきました。通算二十五回目となる今年は五組が当番でしたので、代表幹事には高橋駿輔さん・前田恒昭さん・福島継一さん・長田宏さん・國井明さん・奈良部一さん・渡辺照雄さん、はじめ五組の方々に進めていただきました。

平成二十六年六月十四日(土) 両国「ザ・ホテルベルグランデ」

梅雨入りしたというのに、当日は雲一つなく日本晴れ!!!天が味方をしてくれました。参加者は六十八名:これまでの同期会で最小

の集まりとなりました。この結果にはそれなりの原因があったのです。それは、ここ何年も毎年六月の第三土曜日開催で定着

しておりました同期会を、第二土曜日に変更した事です。同期会は第三



週、と予定を組んで居られた方々のスケジュールを狂わせ、ご迷惑をおかけしてしまいました。

実は公益財団法人東京三商会が本年十月落成を目指し会館を建設中ですが、こけら落としの際にそこで同期会を開催できたら…:等と夢を描いておりました。その際は同期会を本年六月ではなく、十一月に開催いたします旨のご案内を三月頃までに発送を…と考えておりました。

三月二十二日に地鎮祭が行われ、そこで設計図等詳しい資料に接しました処、実際には私どもが想定して居りました会場より狭いと知り、急遽他に会場を当たりましたがジュンブライドの関係もあり、第二土曜日しか確保できませんでした。言い訳ばかりが先行し、この様な後手の結果に至りましたのは

総て、私古田の見通しの甘さ、配慮の欠如より発生しました事で、不徳の致すところ心より潔くお詫びを申し上げねばなりません。ひとりよがりの夢は程々にしないと、周囲に迷惑を及ぼす事となると反省しきりです。

いくつになっても、同期生の「よしみ」もあつて語らい喜び合い：感激し合い：楽しい時間を共有できる素晴らしい同期会。継続して行く事が重要ぞ!!と改めて痛感しました。

同期会：大袈裟ですが、それは、私の命：宝であります!!!



四十九期同期会報告

第49期 岩瀬 茂幸

平成26年1月26日、日曜日に我ら第49期の4回目の同期会が行われました。今までは18歳で卒業してから、28歳、38歳、48歳と10年ごとの節目に開催されていきました。

しかし、一昨年の第3回同期会で、思いのほか盛り上がったこと、五十路を迎えそれぞれの暮らしに余裕ができ、青春時代の思い出を強く懐かしむ心境になつてきたこと・・・同期会後日に開かれた幹事会の反省打ち上げ会で、皆が同じ思いを持ち、もつと短い間隔で、同期会を開こうとなつての今回です。前回から1年と3か月、ご高齢になる先生に度々お運びいただくのも大変かと思ひ、今回は同期生のみでの開催です。連絡のつかない人も多し中、前回とほぼ同じ56名の仲間が集まりました。



二次会も大盛況

・・・さて当日、会場は前回同様銀座の街ですが、今回は7丁目にある銀座ライオンを予約しました。寒空の下、コートの襟を立てながら集まった級友たち。昭和モダン漂うビアホールと着席でのバイキング形式は、落ち着いて飲食ができたこともあり、おむね評判がよかつたようです。そして、利用した5階は音楽ピアプラザと銘打たれるホールで、プロのクラシック音楽家が、我々の宴席でショートコンサートを催してくれました。

歓談の間には、無料で貸し出してくれるプロジェクターや音響を使い、卒業アルバムを電子化した映像を流しましたところ、若かりし友の顔、突然大いに盛りの自分の顔などに喚声をあげ、これまた大いに盛り上がりました。何度やっても、楽しい時間は早いもの。あつという

間に終了の時間を迎え、みんなで記念写真を撮った後、二次会へと移動しました。

二次会は、二丁目の居酒屋さん。幹事会でも何度か使っていた所です。一次会と距離もあるし、何人来てくれるかなと不安でしたが、蓋を開ければ、ほとんどの人が二次会も参加。用意した40名近くが座れる座敷に無理やり参加者を詰め込み、それでも溢れた人が、数卓のテーブルに分かれて座るほどの盛況でした。肩触れ合う狭い空間に、座敷の雰囲気も手伝つてか、みんなの喚声もヒートアップ、32年前の校舎内となんら変わらない騒がしさです。



銀座ライオンにて

一次会、二次会合わせて、4時間の宴も中締めの手拍子とともに散会。・・・とは言え多くの、立ち去りがたし者たちはそのまま居酒屋に残り、木枯らし吹く銀座の夜が更けゆくのでした。

深川と母校を訪ねて

33期同期会報告

第33期 佐久間 保人

60才近くから始めた33期の同期会ですが、第3回目になりました。(60才の時にミニ同期会70名参加を開催しています) 4年に一度冬季五輪の年に開催しています。今回は約150名の参加となりました。

「どうせやるなら学校の近くで開催したら・・・」「どうせなら学校見学もしたい・・・」「5千円会費で

できるように・・・」「年寄りなんだから料理は簡単で・・・」「4年に一度なんだからケケケケせず、ホテルでやったら・・・」「リタイアした人も増えたのだから平日開催でもいいのでは・・・」いろいろな意見があったのですが、初めての試みとして、古石場文化センター（一日借りても1万5千円）、ケータリング（料理は少なめ）、会費は5千円、学校見学会付き（同窓会行事に便乗）で開催できることになりました。

5千円会費と公共施設のため、自分たちで会場設営をしなければならぬハンデはありましたが、15名以上の幹事や協力者のおかげで開催することができました。今回の同期会のテーマは「三商今昔」として50年前のいろいろな資料をプロジェクトに映写したり、古石場で開催したため50年前の通学路を利用して会場に集合したり、懐かしさがいっぱいでした。特に当日開催された「改装なった母校見学会」には34名の参加があり、会場運営にも5名程度の方がお手伝いいただきました。

前回も好評だった「卒業顔写真 1年・2年・3年 クラス明記」の名札と1年・2年・3年毎にテーブ



総勢150人の大迫力！ 於、古石場文花センター

ルチェンジで多くの方とお話ができたようです。圧巻は最後の全体写真でした。クラス毎の集合写真は撮っていましたが、今回は舞台付きの会場で150名が並ぶことができました。わあわあ言いながら揃った150名の集合写真を見ると自然と笑顔が出てきます。また初めて同窓会岩瀬会長と尾坂副会長もご出席いただき同期と楽しく過ごさせて頂きました。そして案内状印刷などで同窓会事務局の方にも大変お世話になりました。ありがとうございました。ございました。

同期会が楽しいのは、たった3年ですが一緒に過ごした仲間と50年経ってまた会える幸せです。今回は16名の方が初めての参加でした。50年ぶりの感激の再会は感動的でした。またこの仲間と会いたい、参加できない方にもこの楽しさをわかっていたいただきたいと思えます。また昨年参加した校歌祭や80周年記念式典、評議員会など同窓会行事への積極的参加と活動への協力を33期の仲間にアピールしていきたいと思えます。そんな意味からも同窓会ホームページに33期の同期会ページをアップしています。他の同期会開催に少しでもお役に立てればと掲載させて頂いています。次に会えるのは「70才古希」ですか!!みんな元気ですね!



そこかしこで、会話の花が咲きます

パッション会
パッション会の2014例会

第22期 斎藤 稔

2014年6月21日(土)

22期パッション会(3年6組)の例会を、今年も富岡八幡そばの「富水」で、17名の参加を得て催しました。残念ながら前回の開催後に2人の仲間が鬼籍に入り、彼らに黙祷を捧げ懇親会に移りました。ただ、去年は加療中で参加できなかった仲間が2人加わったことは、大きな喜びでした。

こもこも、昔を語り今を語り、楽しいひと時を過ごしました。喜寿も過ぎ、絶対に総員が増えることの無い会ですが、来年も会えるよう健勝を誓い合いお開きとしました。



富水前で記念写真

音信不通だった級友が、三商同窓会のHPでこの記事を読み、「俺もパッション会会員だ」と名乗り出てきたら嬉しいですね。

二十二期同期会の報告(喜寿祝賀会)

第22期 篠崎 清

平成25年10月19日(土)正午より同期の皆川君の経営する船橋グランドホテルにて喜寿祝賀同期会を開催いたしました。

当日は参加者40名とやや寂しい様な気も致しましたが我々の同期は全員77歳を迎えたことを考えますと参加してくれた仲間感謝しなくてはと思ひ改めました。

祝賀会の様子は石川 勲君の司会により時間どおり12時にスタートし最初に鶴ヶ谷義徳 同期会代表の挨拶に始まり、続いてグランドホテルの会長を務めの皆川泰蔵君の事務局報告をいただきました。

我々の同期会は皆川君と補佐をして頂いている鶴田君の名コンビのおかげで長い間順調に推移してこられた事を思いますが、感謝の気持ちでいっぱいです。

次にわたくし篠崎が三商同窓会と公益財団法人東京三商会の現状をお話ししましたが一番興味を示されたのが会館の建設についての感じました。

それと現在大改修中の三商の校舎がどのように変貌するかと楽しみにしておられる仲間が多数見受けられました。

来年の4月には新校舎の竣工を待つて、ここ何十年も学校を見る機会がなかったのでぜひ見学に行きたいという希望者がたくさんおられたので母校三商を案じてくださる気持ちに感激いたしました。

続いて今村輝男君の乾杯のご発声で開宴となり約2時間の間、10人掛けの丸テーブル4卓を囲んで学生時代のことから現在の孫自慢まで話の尽きないまま時間となり、鶴田君の閉会の辞で次回は80歳



喜寿祝賀を兼ねての同期会

を迎える3年後の再会を約束してお開きとなりました。
尚毎年2月ごろに新年会、9月頃には暑気払いの会を開いておりますので、ご希望の方は事務局まで連絡してください。

二十四期同期会の報告

第24期 福原 伸行

——三年ぶりでした「24期会」——

三商同窓会ホームページに長いこと「開催案内」を載せていただきました。お蔭さまで10月27日(日)、第十五回 二十四期会を開催出来ました。ありがとうございました。

この週は、台風27号と28号が南の海に並んで、どちらの方向へ行くのかしらと思案しているような状態の日が幾日も続きました。伊豆大島の方々が島外に避難する映像が流れ「土曜日頃、関東に接近」の予報もありました。

75名の出席返信が来て、会場には人数が報告してあって、これで27日・日曜日の朝から大雨大風だったらどうしようとかかなり心配しました。同期生の中には、かなり遠方から毎回出席してくれる人もいて、また歳のせいで脚の具合が良くないという人は出席返信に「雨がひどい時は遠慮させて貰う」との条件をつけて来られました。

当日は見事に晴れた素晴らしいお天気でした。何よりの「天からの贈り物」と考えて、「ありがとう」と感謝しました。「台風一過」と言いますが、心配がウソのような良いお天気でした。残念なことのひとつ発生しました。6組担任の吉岡鶴義先生から

は「出席」でご返事を頂いていたのですが、当日朝にクラス幹事が電話で確認したところ、前日に転んでケガをしたので今回は欠席させて欲しいとのことでした。24期9クラスの担任は吉岡先生のみご健在で、毎回元気なお姿と豪快なお話で我々に元気を下さるのですが、今回はお休みでまた次回ということになりました。

12時定刻に開会。樽見代表あいさつ。福物故者への黙祷。福原代表代行が収支報告と進みました。さて、同期会出席の顔ぶれは、ご常連といたった人が殆どですが、24期会では当日の出席者の中で、一番遠くから来て下さった人が乾杯のご発声を担当するという決まりになっておりまして、今回は鹿児島から参加の芳井君に、恒例通りにやって貰いました。



お天気にも恵まれ、無事挙行

当日の同級生たちをじっと観察していて、まさに「良い歳を重ねる」とはこういうことなんだと実感しました。全員が後期高齢者になる年齢です。介護や福祉という文字や言葉がこの年代の私たちの周りを飛び交います。元気に一人歩きが出来るって素晴らしいことなんだと思います。些細な日常の事をひとつひとつこなして日々の生活があります。

全員で校歌・応援歌を熱唱し、二年後の再会を約してお開きとなりました。

有志者の
開催報告

三水会総会・新年会の報告

第29期 土方 敏之

平成26年の総会として新年会を1月18日(土)午後5時30分より、神田「その田」にて開催いたしました。まず、藤枝精治会長(24期)から「今年もがんばりましょう」の一声と乾杯により今年の三水会のスタートとなりました。

ビールで口を湿した後、加藤晋一会計(28期)により、会計報告がなされ、同じく承認されました。後は自由におしゃべり、食べ、飲むの時間になりました。

料理の内容はもずくのぬるりから、フグ刺し、海老刺し、天ぷらと続き、飲み物もビールからヒレ酒(全員でいただきました)に変わり大いに堪能しました。今回も夫婦同伴の会食であり、奥様たちは奥様たちで集まり、これまたおしゃべり、食べ、飲むと盛り上がり、夫といえども中には入れません。

男性陣も男同士で飲み、しゃべり、食べています。ここで一服。

三水会は三か月に一度食事会を催しております、その内2回は夫婦同伴の会です。

やがて、更けゆく夜にともないフグの毒に殺られたか、ヒレ酒もビールもおいしく楽しく、飲んで食べてしゃべった会も、鬼澤好男副会長(25期)の挨拶、中メにてお開きになりました。

今年もよき年でありますように、お祈り申し上げます。

同期会開催のご案内

第二十五期(昭和三十三年卒)

同期会の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、同期会の皆様には大半の方が、本年満七十五歳を迎えます。いわゆる後期高齢者の仲間入りをするわけです。

この時期に更なる健康長寿を誓いながら、旧交を温め度く、同期会を左記要領で開催致します。奮ってご参加をお願い致します。

記

日時 十一月五日(水曜日)

十二時~十四時

受付時間 十一時三十分より

会場 『東武ホテルレバント東京』五階

(JR錦糸町駅徒歩三分)

会費 八,〇〇〇円

同期会幹事 當麻 隆

電話 〇四五(八一三)三〇四五

第五十二期(昭和六十年卒)

52期(1985年3月卒業)の全クラス合同で同期会として開催されます。

日時 九月二十八日(日曜日)

十四時から

会場 THE GARDEN

中央区銀座1-5-10

GINZAファーストビル9~10階・屋上

三商祭のお知らせ
十月三日(金) 四日(土)

去年は『プレハブなんて関係ねえ!! 三商祭!!』(笑)をスローガンに行われました。今年はずいぶりに本校舎で開催です。



お店の電話 03(3561)5454
※10名のお世話になった先生方もお招きして開催されます。

同期会幹事 梶原 勝

専用特設サイト 52期特設掲示板

<http://tcs1985.bbs.coocan.jp/>

お問い合わせ E-mail:52ki@tcsa.jp

同窓会活動報告

定時評議員会報告

第28期 小林慎典

平成二十六年六月七日(土)午後六時より、すみだ産業会館九階「会議室四」に於いて平成二十五年度の定時評議員会が開催された。

定刻になり小林慎典(二十八期)の司会で始まり、土方敏之副会長(二十九期)の開会の挨拶に続いて岩瀬和子会長(二十六期)の挨拶、そして杉本光男事務局長(二十六期)より定足数の発表があり、議長選出については司会者一任との声により、会則十七条により出席評議員の中より今泉清氏(三十一期)を指名、異議なく今泉氏が議長席に着き議案審議に入った。

第一号議案 平成二十五年事業報告承認の件

杉本事務局長より説明があり、前年度承認された平成二十五年事業計画案はすべて実行された旨の報告があり原案通り承認可決した。

第二号議案 平成二十五年会計報告及び監査報告承認の件

渡邊秀明会計担当(四十八期)より特別会計の差引次年度繰越の金額にミスプリントがあったこと、説明があり、会計報告により各主要項目の説明があった。

続いて古田勝一監事(二十六期)より監査報告があり承認可決した。

第三号議案 役員任期満了につき役員改選の件

役員任期満了につき、三浦康二氏(三十一期)の提案で提出された役員名簿記載の評議員について承認を求め候補者名簿記載の通り承認された。

理事互選による役員選出のため十分間の休憩、動議が出され別室にて役員互選を行い、三浦康二氏より監事三名はじめ会長、副会長等主要役員を「別表」役員名簿の通り決まった旨報告があり、承認可決した。

第四号議案 平成二十六年事業計画承認の件

杉本事務局長より「平成二十六年事業計画案」の説明があり、原案通り承認可決した。

尚、総会については平成二十六年十一月に行う予定で時間・場所は未定、後日連絡することとする。

第五号議案 平成二十六年予算案承認の件

渡邊秀明会計担当より平成二十六年収支予算案について説明があり、原案通り承認可決した。

第六号議案 同窓会会則一部改定承認の件

杉本光男事務局長より原稿の同窓会会則第三条の目的事項と第八条の役員の条文が現行にそぐわない為、改定したい旨説明があり、原案どおり承認可決した。

その他持寄り議題

評議員大嶽正俊氏(二十期)より東京三商会について発言。経緯、現状について質問あり、東京三商会理事長の杉本光男事務局長より詳細説明し、三商同窓会報No.51に記載してあるのでご参考にして頂くことにする。

午後七時五十分篠崎清氏(二十二期)の閉会の挨拶で本日の評議員会は終了した。

役員紹介

任期 平成二十六年六月七日より

平成二十八年開催評議員会まで

(二年間)

会長	岩瀬和子(第26期)	再任
副会長	篠崎清(第22期)	再任
副会長	尾坂富美子(第24期)	再任
副会長	土方敏之(第29期)	再任
副会長	小林慎典(第28期)	新任
副会長	三浦康二(第31期)	再任
副会長	杉本光男(第26期)	再任
副会長	鷲嘉雄(第28期)	再任
副会長	柳田保之(第29期)	再任
副会長	藤倉久男(第30期)	再任
副会長	亀田八千代(第31期)	再任
副会長	平野淳一(第37期)	再任
副会長	渡邊秀明(第48期)	再任
副会長	古田勝一(第26期)	再任
副会長	辻井正巳(第27期)	再任
副会長	三川廣志(第34期)	再任

平成26年度事業計画

指針

- 今年度も前年度同様、若い世代に同期会を行ってもらうよう働きかけをし、支援する。
- 学校とのかかわり、交流を深めるために、同窓会の会合はなるべく学校で行うようにする。
- 「公益財団法人 東京三商会」の会館が10月に完成予定 どう活用できるか期待したい。

平成25年度 会 計 報 告

自 平成25年 4月 1日
至 平成26年 3月31日 (単位 円)

項 目	予 算 額 (A)	執 行 額 (B)	差 額 (A-B)	備 考
前年度繰越	9,210,993	9,210,993	0	
(収入の部)				
会費(81期)	1,820,000	1,820,000	0	
運営協賛金	600,000	605,000	5,000	
利息他	2,000	1,267	-733	
収入合計	2,422,000	2,426,267	4,267	
[支出の部]				
理事・評議員会	300,000	255,181	44,819	
総会				
新年会	180,000	104,470	75,530	
校歌祭	180,000	90,210	89,790	
同窓会報	600,000	682,800	-82,800	会報送料込
ホームページ	500,000	500,869	-869	
活性化活動費	200,000	242,102	-42,102	
母校部活支援	200,000	170,831	29,169	
就職活動支援	100,000	61,535	38,465	
母校支援	170,000	64,460	105,540	
卒業証書入れ	150,000	117,782	32,218	
会合費	50,000	0	50,000	
慶弔費	50,000	40,000	10,000	
通信費・事務費	50,000	33,092	16,908	
80周年記念事業	400,000	519,190	-119,190	祝賀会、プロジェクター、横断幕
特別会計予算	50,000	0	50,000	
支出合計	3,180,000	2,882,522	297,478	
(繰越の部)				
前年度繰越	9,210,993	9,210,993	0	
当期収入	2,422,000	2,426,267	-4,267	
当期支出	3,180,000	2,882,522	297,478	
次年度繰越	8,452,993	8,754,738	-301,745	

特別会計(80周年記念事業)

前年度繰越	2,197,008
一般会計(81期)	0
受取利息	261
収入合計	<u>2,197,269</u>
支出合計	<u>0</u>
差引次年度繰越	2,197,269

上記のとおりご報告申し上げます。
平成26年4月25日

会 計 小 林 慎 典

監査の結果正確である事を認めます。
平成26年5月2日

監 事 古 田 勝 一
監 事 辻 井 正 巳
監 事 三 川 廣 志

会のご案内



三商会館建設中

公益財団法人東京三商会では、現在母校都立三商にほど近い「江東区牡丹1丁目」に鉄筋4階建ての「三商会館」を建設中です。6月末現在で、1階コンクリート打ち込みが完成し、2階仮枠組立へと着々と工事が進んでおります。

完成後の「三商会館」では、1～2階を賃貸物件とし、財団運営費用の資金源として活用されます。

最上階の4階は日々の運営拠点となる財団事務所が置かれる予定となっております。こちらは、同窓会事務局としての機能も兼ね備えています。

そして、3階は多目的スペースとして、三商生の学業やクラブ活動の手助けになるような貸し出しを行い、公益財団法人としての事業の一端を担う事となります。

また、我々三商同窓生や地域の方々が、会議や集会に利用できるよう、建物の完成に合わせて様々な取り決めなど、詳細部分を現在検討中です。

東京三商会は、財団発足時の昭和39年より現在まで50年間、三商生を中心に都立商業校生徒に学費援助として、返還不要の奨学金を続けてまいりました。

今後は奨学金事業に加え、この「三商会館」を中心に東京三商会は新たなステージへと、変革してまいります。

これからの東京三商会と「三商会館」に、ご支援ご理解を宜しくお願いいたします。

建 築 概 要

建設地	東京都江東区牡丹1丁目12番7号
土地面積	136.65㎡ (41.33坪)
建築面積	81.95㎡ (24.79坪)
延床面積	314.21㎡ (95.05坪)
高さ	11.94 m (最高 15.3 m)
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上4階建て
用途	事務所
完成予定	平成26年11月初旬
(面積・高さ・完成予定などは状況により変更になる場合があります。)	

※建物完成後、三商同窓会の事務所も現在の墨田区業平及び江東区佐賀から、当地江東区牡丹になります。時期や電話番号等は詳細確定後、ホームページ及び各種の行事ご案内時の郵送物内にてお知らせいたします。

東京三商会の概要

名称	公益財団法人東京三商会
所在地	東京都江東区佐賀1丁目7番10号
設立	昭和39年1月財団法人として設立 平成23年4月公益財団法人へ移行
主な事業活動	都立の商業科目を有する高校の生徒を対象に 各種の奨学事業を行う
奨学金事業	平成25年度実績 (1名 12,000円/月額) 支給総額 4,896,000円 (34名) 平成25年度予算 (1名 15,000円/月額) 支給予定総額 6,120,000円 (34名) 上記奨学金には返済義務を設けない
優良卒業生表彰	校長推薦により、賞状・記念品を贈呈
代表理事	杉本 光男 (第26期)

寄付制度の確立

公益財団法人東京三商会は、三商の創設時に狭かった学校敷地を拡充するために集めた、PTA会費や卒業生の募金等を原資として活動しております。

長年、その原資を資産運用した利益が、毎年の奨学金事業及び運営諸経費に充てられてきました。

しかし、長引く不況と金融情勢が不安定な中、社会に有意な人材を育成するために運用益だけでは厳しい状況となり、原資を取り崩さないと賄いきれないのが現状です。

現状を打破するために、土地の取得と三商会館の建設にも踏み切りましたが、長期的な視野では有益と思われても、直近の活動については、なお厳しい状況と言わざるを得ません。

そこで、東京三商会は現在の活動を維持する為、同窓生を中心に広く寄付を募る方針を打ち出しました。

その方法や取り決めに関しては全く白紙の状態ですが、早急に骨子をまとめ、皆様にご報告する予定であります。

当会は公益財団法人ですので、寄付をした際には税金控除の対象となります。控除の詳細につきましても、現在調査中であります。

諸々準備が整いました折には、皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

東京三商会



有限会社 **みのる不動産**

都知事 (12) 21090 号
公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会 会員

代表取締役 **三川 廣志**
(第 3 4 期)

- 亀戸店 東京都江東区亀戸7丁目11番12号 京葉道路面
TEL (3684) 5851(代) FAX (3684) 5850
E-mail: mk@e-minoru.com
- 本店 東京都江東区北砂7丁目4番3号 環状四号面
TEL (3644) 7573(代) FAX (3640) 2543

フットウェア製造卸

丸喜株式会社

20期



代表取締役会長

河原 啓介

本 社
〒111-0032 東京都台東区浅草6-4-12
Phone:03-3876-1751 Fax:03-3875-6168
http://www.maruki-net.com
E-mail:k-kawahara@maruki-net.com



株式会社 **杉本好二商店**

代表取締役 **杉本 光男**
第26期 (卓球部)

〒130-0002 東京都墨田区業平1-17-5
TEL 03-3623-2185
FAX 03-3623-1859

砂利・砂・セメント・碎石
生コンクリート・アスファルト 販売店

「人間と植物の共生社会」の実現を目指して

(社) 日本インドアグリーン協会員
東京グリーンサービス事業協同組員

サンキグリーン産業株式会社

園芸装飾技能士

代表取締役 **亀田 八千代** (第31期)

〒135-0024 東京都江東区清澄2-15-5
TEL:03-3642-8714 FAX:03-3643-8732
E-mail: yachiyo715@shore.ocn.ne.jp

アルミ建材・リフォーム工事
ガラス・アルミサッシ・スチールドア工事
都知事許可(般-18)第36530号

輝 **今村ガラス**

(第22期) **今村 輝男**

〒110-0012 東京都台東区竜泉3丁目9番7号
TEL 03 (3873) 5927(代)
FAX 03 (3873) 6369

どじょうすくい踊り教室

読売見本市文化センター錦糸町 (第1&3日曜日) (10:00~11:30)
読売見本市文化センター川崎 (第2&4日曜日) (15:00~16:30)
朝日カルチャーセンター千葉 (第2&4日曜日) (13:00~14:30)

講師 **後藤 省三** (28期)



安来節保存会 踊師範 (大利根支部)
〒272-0033 千葉県市川市市川南1-1-8-808
TEL&FAX 047-321-0786

『両国の駅のおそばの大関庵
味も良ければ盛りもよいよい』

そば処 **大 関 庵**

19期 **大 関 守**

JR両国駅西口
国技館通り中程 TEL.03-3631-0728

魚河岸

海老・貝仲卸

土 方 商 店

土方敏之 (第29期)

〒104-0045 東京都中央区築地5-2-1
電話 & FAX 03 (3541) 8408

中小企業、納税者の権利拡充に努めます。

税理士法人

荻野会計事務所

経営革新等支援機関

— 経済産業省 —

代表社員

荻野弘康

(第二十二期)

東京都荒川区南千住五―二五―十四

〒一一六―〇〇〇三

TEL:〇三―三三〇三―二三二八

FAX:〇三―三三〇五―二〇六九

MAIL:zei_ogi@d3.dion.ne.jp

～同級生からのコメント～

昭和29年10月第1回全国高等学校簿記コンクール
に出場団体戦優勝都立三商(荻野・西脇・中川)
個人の部優勝(荻野弘康)

おしゃれエプロンメーカー

有限会社 篠崎

取締役会長 篠崎 清 (第22期)

〒272-0021 市川市八幡4-17-33

TEL047-334-5027 Fax047-334-5432

そばの里
みっます

住所/130-0022

東京都墨田区江東橋
4-20-4

TEL/03-3631-5850

定休日:土曜及び祝日です

河西紀道
(第25期)

(墨田区銘品名店会)

手打蕎麦



公認 不動産コンサルティングマスター

西 邨 昭 一 (第31期)

一般社団法人 千葉県宅地建物取引業協会
公益社団法人 全国宅地建物取引業保証協会千葉本部
専任相談員

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-17-3 (千葉県不動産会館)
TEL: 043-241-6671 FAX: 043-245-0866

(自宅)

〒279-0042 浦安市東野2-6-1
TEL: 047-353-0932 FAX: 047-353-4533

医療法人社団 飯ヶ谷内科クリニック

理事長 飯ヶ谷 清
医学博士

(第22期)

千葉県鎌ヶ谷市東道野辺5-19-15

TEL 047(445)8881

第3回 33期同期会が開催されました。2014年5月18日

詳細は同窓会ホームページ tcsaa.jp で

住所変更はクラス幹事・同窓会事務局にお知らせください。メール <33ki@tcsaa.jp>

33期卒の方のお店です。ぜひご利用ください。

3年2組	藤岡 拓	江戸政 寿司店 江東区東砂	03-3648-2737
3年3組	野口 隆	うなぎ・やきとりの店 江戸川区新堀	03-3678-8535
3年5組	田村幸司	田村 日本蕎麦店 福生市	042-553-4146
3年8組	長濱英行	喜楽 中華店 亀戸天神そば	03-3681-0563
3年8組	前田領市	鳥末 惣菜店 深川牡丹	03-3643-4129
3年8組	古山宏之	ロータス 喫茶店 日本橋高島屋裏	03-3271-8655
3年8組	坂口保夫	どんどん亭 お好み焼き店 森下	03-3635-4823
3年8組	高木利夫	川勇 うなぎ店 石原3丁目	03-3622-5592

第33期同期会有志一同

(第21期) 平林 慶雄

03(3644)4487

有限会社 平林油店

(エネオスフロンティア 特約店)

南砂SS (03)3644-6161
江東区南砂3-4-5

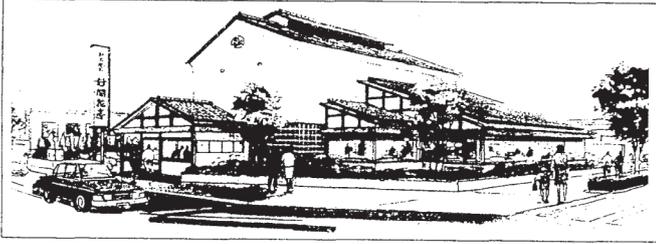
宇喜田SS (03)3680-2541
江戸川区宇喜田1223

自 宅 (03)3644-4487
江東区南砂4-19-13

創業明治四〇年 下町の味を伝えて一世紀
うなぎ
川勇

高木利夫 (第三十三期)
元史学部

〒一三〇〇〇一一
東京都墨田区石原三三〇・九
TEL:〇三・三三六二・二五五九二
FAX:〇三・三三六二・二五五九二



ベーカリーレストラン マルコ
MARUKO 3656-5211
 しゃぶテキ亭 3656-5629
 春江店 5677-0101
 葛西店 3689-0101
 柴又街道 花炎亭 3677-8601

昭和36年卒 28期生
 代表取締役 田中 稔

当店では、ご宴会・ご会合・法事や各種パーティー等人数・ご予算に応じて承っております。

営業時間 AM11:00~PM11:00

お食事処  **開花亭** 葛西店

江戸蕎麦打處
あさだ

江戸時代より続く
 伝統のわざと味

(第二八期) 粕谷 安孝

二階椅子席二〇名、椅子席一〇名にて
 クラス会等にご利用頂いております

コース料理、鴨なべ、鳥すき等
 揃えてお待ちしております

定休日 日曜日

台東区浅草橋二・二九・十一

江戸通り浅草橋と蔵前の中程

電話 〇三(三八五二)五四一二

あさだHP <http://www.asada-soba.co.jp>

創業 文久年間

素材の良さと
 伝統の味を
 守り続ける老舗

創業
 文久三年



割烹 **とよだ**

東京都中央区日本橋室町
 1-12-3

電話 03-3241-1025
 (日・祝日休み)

橋本 敬(20期)

<http://www.n-toyoda.com>



第22期 皆川泰藏

各種ご宴会・ケータリング・ご宿泊・ご婚礼に。

船橋市災害時帰宅困難者支援施設

船橋グランドホテル  

273-0005 船橋市本町7丁目11番地1号 JR船橋駅徒歩3分・駐車場 80台完備

TEL 047-425-1121 

www.funa-gh.co.jp

船橋グランドホテル



東京魚市場 三水会

三商で学んだ商人道を基に営業しております。

会長	藤枝 精治 (24期)	幹事	土方 敏之 (29期)
副会長	鬼澤 好男 (25期)	〃	宇田川武志 (31期)
会計	加藤 晋一 (28期)	〃	中村 一好 (32期)

[三水会の歴史]

昭和25(1950)年発足	平成 2(1990)年10月20日 ホテルメトロポリタンにて創立40周年開催
40(1965)年10月17日 第一ホテルにて創立15周年開催	12(2000)年 スエヒロにて創立50周年開催
45(1970)年10月18日 椿山荘にて創立20周年開催	22(2010)年 インターコンチネンタル東京ベイにて創立60周年開催
55(1980)年9月27日 東京會館にて創立30周年開催	

18期 北原 郁夫	25期 鬼沢 好男(伊勢由)	29期 土方 敏之(土方)
19期 桐ヶ谷正保(㊦尾清)	26期 渡辺 照雄(渡福)	31期 宇田川武志(金 宇田川)
23期 井上 武久(て良)	27期 伊藤 隆悠(西保)	32期 中村 一好(増分)
24期 加藤 守宏(加藤)	28期 加藤 晋一(佃亀新)	49期 宇田川浩一(平井支店)
24期 藤枝 精治(尾藤)	28期 谷島 隆	

生活空間応援します

不動産のことならご相談ください。
住宅・事業用など
トータルサポート致します。



TEL:5628-1511 FAX:3636-2292

(公社)東京都宅地建物取引業協会会員 東京都知事免許(12)第26577号



大雄開発株式会社

〒136-0072 江東区大島1-29-6 アプローチ西大島101
代表取締役 松岡雄治(第26期)

物件情報満載HP

売買情報<http://www.daiyukk.co.jp> 賃貸情報<http://www.daiyukk.com>
『新着物件情報』・『オープンハウス情報』など掲載中です!!

中華喜楽

江東区亀戸3-44-16
 電話 03-3681-0563 **出前迅速**

天神様もお忍びで来るらしい! 亀戸天神様は
 定休日月曜日 (祝日の場合営業)
 営業時間10時から21時 **33期 長浜英行**

細田木材工業株式会社
 代表取締役相談役
 細田 安治 (19期)



合法木材供給 事業者認定 [輸入協-037] 〒136-0082
 東京都江東区新木場 2-5-3

TEL 03-3521-8701 (代) FAX 03-3521-8708
 e-mail: ceo@woody-art-hosoda.co.jp
 http://www.woody-art-hosoda.co.jp/

関西風お好み焼き
どんどん亭
 33期 坂口保夫



森下交差点角 すき屋並び
 定休日月曜日 営業時間17時~23時
 電話 **03-3635-4823**
 江東区森下2-18-1

柳 旬の肴
 YANAGI

柏 俊太郎 (第35期)

〒136-0071
 東京都江東区亀戸6-23-10
 カーサカッシーノ 1F
 TEL 03-3682-0033

小野建材工業株式会社

小型生コン製造販売
 日本工業規格表示認定工場

代表取締役 **小野 雄久**
 (第二六期)

事務所 東京都江戸川区平井七丁目二番二十九号
 電話 03-(3617) 4111 (代) 3番
 FAX 03-(3617) 4111 六番
 自宅 東京都江戸川区平井七丁目七十二番一
 電話 03-(3617) 5004 四番

**第十五期
 同期生一同**

世話人一同



第49期同期会一同



祝 第53号会報発行

**魚河岸
 海老専門**

平井支店
 宇田川浩一 (第49期)

〒104-0045 東京都中央区築地5-2-1
 電話 03(3541)9307

2016年度 豊洲新市場開場(予定)

東京都中央卸売市場 築地市場 青果部卸売人

 **東京シティ青果株式会社**

取締役会長 石川 勲 (第22期)

<東京本社>

〒104-0045 東京都中央区築地5丁目2番1号
TEL 03-3549-9100 FAX 03-3549-9591

<千葉支社>

〒270-0023 千葉県松戸市八ヶ崎2丁目8番2号
TEL 047-348-2311 FAX 047-344-5590

<http://www.city-seika.com>

プロが選んだおいしいバナナです。

全国で販売中!



発売元 東京中央青果株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地4丁目2番11号
電話 03-6226-6850 FAX 03-6226-6851

代表取締役社長 石川 勲 (第22期)

<http://www.tsukiji-banana.com/>

ホッと一息くつろげるお店

江戸娘



54期 宇都英美(藤井) 03-5245-8626

17:30 ~ 23:30(LO) 日曜定休
江東区富岡1-13-2
東西線門前仲町駅 徒歩3分

NEO 大衆食堂 アジアの食卓



樋浦 理 (第48期)

TEL: 03-3647-4709

〒135-0013 江東区千田 22-5 サンハイツセンダ 102

印刷の事なら何でもご相談ください
企画・デザイン⇒印刷・製本⇒納品・発送代行

総合印刷プランナー

Print&Bind's Solution

OFFICE
Iwase

オフィス岩瀬

〒134-0081 東京都江戸川区北葛西2丁目26番9号
第49期 岩瀬茂幸 ブルーハイツ VI-101

TEL/FAX: 03-3877-9520

E:mail: S_iwase@jcom.home.ne.jp

有限会社 大石商会

リサイクルショップ
てるてるぼうず

取締役 大石 傑 一郎
(23期珠算部)

曳舟本店 〒131-0032 東京都墨田区東向島2-14-1

メゾン大石1F ☎3616-2434(代)

東向島店 〒131-0031 東京都墨田区墨田1-15-15うづみずが#1F

☎3616-2430

自宅 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-28-5 蔵前大ビル4F

☎3861-0084 FAX 3861-0067

旨い 安い
下関ふぶ地鶏ちゃん

鳥 義

30期 氏家 賢

本館/墨田区石原3-17-3-101

電話 03-3626-4466

別館/墨田区石原3-17-3

電話 03-3622-8343

FAX 03-3622-8349

http://e-sumaida.gr.jp/toriyosi/

株式会社
エイケン
相談役
今 泉

本社 西三三〇六一
〒千代田市米ヶ崎町七二九番地
TEL 047-422-0021
FAX 047-422-0021
携帯 090-3221-8164

清
(31期)

広告募集中

同窓会報に広告を載せてみませんか?
会社・お店のアピール、同期会等に
来期会報発行にぜひ、ご協賛ください。
お問い合わせは、同窓会事務局まで。
(広告費は会報発行費補助、同窓生への発送費用に活用されています)

参考広告費 (当刊 53号の場合)

	面積	サイズ	金額
A	1 ページ	190×260	¥30,000
B	1/2 ページ	127.5×190	¥15,000
C	1/4 ページ	92.5×127.5	¥10,000
D	1/8 ページ	61.5×92.5	¥5,000
E	1/16 ページ	44.2×61.5	¥3,000

※ご請求は見本誌送付と共に振込のご案内を同封いたします。

同窓生エッセイ

一都七県・・・

それぞれの出会いと思い出

第29期 寺嶋 祐三

一都七県？私が三商在学三年間に試合や合宿で訪れた場所である。

そこには素晴らしい人々との出会いや歓喜・後悔・号泣など様々な思い出が溢れ、自分にしか味わえない希有の経験を5年〜52年前に遡り記憶を辿りながら紐解いてみよう。

1959年（昭和34年）4月、憧れの東京都立第三商業高校に入学した。

入学して1週間、まだ右も左も分からないピカピカの一年坊主が向かった先はレスリング部の部室、恐る恐る扉を開けて「すみません入部したいんですが……」

蚊の鳴くような声で言うと「そうか そうか 良く来たな。」長椅子に座っていた眼鏡を掛けたおっさんみたいな人が優しく迎えてくれた。

その人が立ち上がってまたビックリ！雲つくような大男である。あとで分かったのですが、その人が一番重いクラス69kg以上級で当時の主将だった細金先輩。

なぜレスリング部かって？

三商を受験する前に学校案内を見てレスリング部の存在を知り、合格したら入部しようと思っていました。なぜレスリング？

小さい頃から相撲やプロレス等の格闘技が好きで空

き地に竹の棒で丸い土俵を書き近所の子や兄弟達とよく相撲を取って遊んでいました。

また私の通っていた中央区立有馬小学校のすぐ近くに戦後の日本を勇気づけた偉大な力道山の、脚光を浴びる前の家があり、彼の息子も2年後輩で同じ小学校に通っていた。

それから暫くして日本中が沸き返る活躍をするようになり、プロレス中継の時間帯は街頭テレビや電器屋の店先は黒山の人だかり……

久松警察署の並びにリキ道場（現在はNITのビル）があり、小学校の交通委員が招待され私も若手の練習を何回か見に行きました。

相撲も母親におむすびを作ってもらい水天宮から都電の21番に乗り、小伝馬町で22番に乗り換えて蔵前へ（当時の国技館は蔵前国技館）朝早くから打ち入りまで観戦したものです。

そんな訳で格闘技に憧れていました。が、中学校にはそんな部活は無く、やむなくバスケット部に入り3年間みっちり走り込んで足腰を鍛えました。

その走り込みが結果的にその後の輝かしい戦歴の礎となりました。



当時の三商レスリング部は65kg級の平木先輩・69kg以上級の細金先輩・69kg級の秋山先輩と全日本クラスの手がいました。が、軽量級が手薄で団体戦（52kg・55kg・58kg・61kg・65kg・69kg・69kg以上の7階級）になると東京都代表にはなれない状況でした。

当時の部員数は、3年生7名・2年生6名・1年坊

主は私一人。

結局、4月に入部した私も10月の東京都大会の団体戦に駆り出され、初戦から6kgの減量を命じられて55kg級で初出場：他チームの3年生相手に奮闘しました。

当然ながら初戦ですから地（マット）に足つかずで、終わってみれば2負1引き分け。

それでも先輩諸氏からは「3戦ともフォールされずに10分間もつたのだから大したもんだと……」訳の分からないお褒めの言葉を頂いた。

その貴重な経験がその後の戦歴に大いなる影響を及ぼす事となるとは……

その頃になると勧誘やら自主入部で1年生も5人に増え、辛く長かった孤独な日々から解放され、練習にも一段と身が入り何とかレスラーらしくなってきました。

年が明けた2月5校リーグ団体戦（八王子）4戦全勝・東京都新人戦（青山）優勝と破竹の勢い……その勢いは2年生になっても続いて、5月都民体育大会（蒲田）優勝。

7月関東選手権大会（前橋）第2位、8月の全日本大会を前に静岡県沼津市で夏季合宿。

恩師宮脇先生の母校日本体育大学から現役の大学生が数人来られ、朝早くから夕方まで足腰立たぬ程の厳しい合宿で、涙をこぼしながらもタツクルタツクルもう意地だけ。

そんな猛練習の甲斐があつて8月の全日本大会（新潟市）団体5位・個人では65kg級で秋山先輩が優勝し、三商レスリング部の黄金時代の幕開けとなった。

9月国民体育大会東京都予選（青山）第2位、④（東京の大会は現在の秩父宮ラグビー場の隣に青山レスリング会館が有り、そこが主戦場となっていた。だ

いぶ前に取り壊され面影はない。

10月総合体育大会(青山) 団体2位・11月東京都新人戦(青山) 優勝2連覇、しかし入部して1年半、毎日の練習の積み重ねにより胸筋・腹筋・背筋など身体中に筋肉がついて体重が増加、55kgで参戦するには8kg減量しなくてはならず、この頃より減量に限界を感じてひとクラス上の58kg級で参戦する事を決意。――

――ここでちょっとコーヒーブレイク：減量の仕方について講釈しよう。

6kgと8kgの減量にはスケジューリング的に違いはあるが、基本は同じなので8kgの減量を例に。

その内容を披露すると試合の10日前から3日間、朝食抜き・練習中もスパリングが終わるたびにトレーニングを重ね着し、頭から毛布のような物を被って少しでも多く汗を流す(この方法は試合前日まで続行)。

7日前から朝食・昼食抜き、5日前から練習が終わってから都バスで東京駅八重洲口へ行き、地下にある東京温泉のサウナへ直行、1回30分のインターバルを3回(これも試合前日まで続ける)。3日前から朝食・昼食・夕食と3食抜き、こうして試合当日の朝の計量でギリギリセーフとなる。

余談だが東京温泉の入湯料は当時の金額で200円でした。もちろん自腹です。――

――話を元に戻そう。2年の3学期になると部員全員が力をつけてきて同期61kg級の島田(故人)、69kg以上の級の竹内、一年生にも52kg級の荒川、65kg級の佐藤、69kg級の江口など団体戦の全日本大会で戦えそうなメンバーが揃った。

3年生になり主将となった5月全国選抜選手権は(新潟) 残念ながら3回戦で敗退。

その頃から私自身、減量苦と左右の腋の下に出来た吹き出物が化膿し腕が上がりえない状態に陥り、2ヶ月ほど練習も出来なければ当然ながら減量も出来ない大スランプに：

6月の関東選手権も4位、7月の全日本大会東京都予選も2位と今まで味わった事のない屈辱を。それでも、全日本大会の団体戦は東京都代表になり、主将の役目を全うした。

夏休みに入り、全日本大会に向けての強化合宿でやっと完治し、練習・減量と順調に進みよいよ本番に向けてエンジン全開、いざ山口県田布施町へ：当時は当然の事ながら、新幹線などなくて、うる覚えながら相当長い時間かけて田布施町に到着した記憶が。



町自体あまり大きくないので、各都道府県の代表チームは、一般家庭にお世話になる事に。

東京都代表の我がチームは片貝さんのお宅に民宿。田舎も田舎で減量の為、あぜ道をランニングしていると畑で仕事をしている農家の方から「マムシが出るから気をつけな！」の注意。

減量で何も食べられない私を気遣って、片貝さんのおばさんが絞り立ての牛乳を勧めてくれたのが大事件に：

翌日に試合を控えた前日に激しい腹痛と下痢に悩まされ、試合当日の朝まで眠れない状態、腹に力が入らないのでおばさんに晒しを用意して頂き、グルグル巻にして試合に臨んだ。

そんな悪条件の中、1回戦2回戦とオール勝ち、3回戦判定勝ち、4回戦オール勝ち、と何とか主将の面目を保ち、何と団体戦3位の偉業！

山口県出身の岸信介元総理から、賞状と銅メダルを

戴いた。

これも偏に片貝さんの優しさと機転によるものと感謝・感激。

全国3位になった御褒美に秋吉台と鍾乳洞を見学、減量苦からも解放されて楽しい旅に。

9月国民体育大会東京都予選(青山)に優勝し58kg級の東京都代表に、それだけではない。

なんと三商から61kg級島田、69kg級江口、69kg以上級竹内と4人が東京都代表に：

まさに三商レスリング部の黄金時代そのものである。

10月第16回国民体育大会(秋田) 会場は五城目町、やはり小さな町なので我々東京都代表は減量組と増量組の二手に別れてホームステイ。

言うまでもなく私は減量組で加藤さんのお宅にお世話になる事に。

国体の試合は勝ち進むと4日間続き、4日間とも朝の計量があり、試合が終わったからといって食べ物を入れない事は出来ない。

そんな私の状態を危惧して、加藤さんのおばさんがレモンの輪切りを持たせてくれて、試合が終わるとそのレモンを口に入れて喉の渴きを癒していた。

また、秋田は10月でも非常に寒く汗が出る状況ではなかった。

とは云え町にサウナ等あるわけもなく、加藤さん家の風呂を熱くしてもらい、頭から風呂の蓋をかけてもらって即席のサウナで減量。

そのお陰で4日間7試合を全勝し、見事に優勝、日本一の栄冠を。

加藤さんには初日に歓迎のつもりで、秋田名物のキリタンポを用意して戴いたのに残念ながら味わう事が出来ず失礼しました。

東京都のご好意で大会終了後に男鹿半島へ、雄大な日本海の荒波となまはげを鑑賞。

帰京してすぐに東京オリンピックの代表候補に選出され、神奈川県三浦半島にある陸上自衛隊武山駐屯地・千葉県夷隅郡にあるスポーツ施設での強化宿舎に参加。

全国から選ばれたエリート達としてのぎを削るとともに仲間としての絆を深めた。

今思うに自分のやりたい事を全うし、頂点を極める事が出来たのは、自分自身の汗と努力の結果だけではなく、宮脇先生という素晴らしい指導者に出会えた事、同じ目標に向かって、日々研鑽を積んだ先輩諸氏、同僚、後輩、支えてくれた大勢の皆さんのお陰と、感謝の気持ちでいっぱいである。

また、そのような環境と機会を与えてくれた都立第一三商業高校に乾杯。

—— まだまだ書き足りない事、エピソードが沢山あるが次の機会にでも…。



戦時下の先輩から受けた薫陶

第14期 奈良部 光孝

昭和十六年に大東亜戦争が勃発した。その年の四月に三商に入学した私は、サラリーマンの道を選び勉学に励んだ。昭和十九年四年生になると戦局は悪化の一途を辿り、勤労働員で工場に働きに出る事となり学業も制限された。修学年限も五年から四年に短縮された。

その頃陸軍の将校が来校し、生徒に軍隊の学校に進学するようにと訴える講演をした。その将校は三

商の卒業生であると紹介された。この事があって私は更めて進学の勉強に取組むこととなった。然し受験に当って試験科目を調べてみると三商で学んでいない科目が幾つもあることを知った。そこでこれを補う為、夜間の予備校に通った。すると科目全般にわたって旧制中学の生徒に比べると学力のレベルが相当劣っていることに気付いた。愕然とした。それでも先輩のような将校になるには何としても克服しなければと頑張った。

その結果、陸軍予科士官学校にやっと合格することが出来た。そして晴れて入校して驚いた。そこにあの先輩が教官として居られたのだ。士官学校の教官には、エリートとして陸軍大学を目指す優秀な将校が少なれないことは知っていたので、三商のレベルがこれ程高いのか、如何に輝かしいものであるのか、証明されていることに吃驚すると共に誇らしく感動したのであった。

士官学校では、旧制中学出身の他に幼年学校や専門学校の出身が居る。特に幼年学校は旧制中学一二年生が競争率何十倍という難関を突破して合格した強者揃いで、三年間学業の他に軍事教育も受け、正にエリートと目されていた。従って士官学校の教官の多くは幼年学校出身で占められていた。その中であって先輩は、学力、体力、精神力が抜群で優秀として選ばれたことは、三商にとつて誇りであり名誉なことであると思つた。そして陸軍大学への道が開かれ軍の首脳を約束されている将校を先輩にもつ幸運を喜ばずにはいられなかつた。これが励みとなり日夜の厳しい勉学、訓練も苦にならなかつた。

然しその一方で、士官学校の生徒の中で、商業学校出身というと一段低く見られ勝ちであつた。悔しかった。この様なときに先輩は「俺を見る」と言っ

て居られるように見えた。そして先輩の顔を穢してはならないと思い、幼年学校や旧制中学の出身者より少しでも多く学び、鍛え、修行し続けた。今日でも尚三商出身の矜持を失わず励むことが出来ている。この先輩こそ三商七期生の米田平太郎大尉である。残念乍ら戦後間もなく病に伏し亡くなられた。私も齢八十を越えた今日この拙文を先輩の為にどうしても書き遺したい一心で筆を執つた次第である。

次に余談として一言申し上げたい。軍隊では当時先輩が後輩に対し、指導、訓育をする際、頬を平手打ちするケースが数多く見られた。この事は戦場において敵と対峙し命を的に戦うという状況下での、優れた行動力、技両、精神力を養うという神聖且つ究極の必要性があるからだと言われていた。それだけに教育訓練は尋常でない程の厳しさが伴うことであつた。先輩に限らず同輩同士の間でも切磋琢磨で行われていた。今でいう体罰だ。この平手打ちを士官学校は「禁止」とした。その理由は人格を傷つけるものであり、教育上マイナス面が増して教育効果を低下させるとの判断だ。そして平手打ちに代わって「胸を突く」ことになつた。教官が直接生徒に手を振り上げることが以前から見られなかつたようだ。死線を越えて戦う兵隊に対して、如何に命を奪われず敵に勝つかを教育する事は難しく厳しい面が多々ある事を理解しなければならぬと必みじみ感ずる此頃である。

私の昭和史

第10期 荻野 文雄

私たち世代は自分の生きてきた道と「昭和の戦争」を切り離して語ることはできない。

明治以来の自由民権運動の成果であり、大正デモクラシーの結実ともいえる普通選挙法（男子二十五歳以上の選挙権）が衆議院を修正可決した大正十四年三月二日、私は越中島川の北側にある漁師町、深川古石場の東京市営住宅に生まれた。鉄筋コンクリート造りの四棟は公営マンションの走りといわれ関東大震災、東京大空襲にも耐えて生き残った。震災後に建てられた五号館に、吉澤 徹校長とは松山中学での師弟以来、関係の深かった仙波直心先生が住んでおられた。着物に下駄履きステッキをつけて散歩されていた。それはいかにも「先生」という風姿だった。

この住宅に関し、清田榮一先生から平成二年に頂いたお手紙の中に次のような一節がある。

「昭和二十二年二月一日、日本の労働運動がエスカレートして共産党主導の下に空前のゼネストが準備されましたが、マッカーサーの指令で中止されました。私は三商の教頭として、事の重大性に鑑み、非常体制で、親交のあった三号館の柴田さん宅に泊まり込んでお世話になりました。」

此処は三商の通学路に当り、小学校へ登校する道すがら、白哲（はくせき）・長身、袴姿の凛とした広瀬登美江先生と擦れ違った。子供心にも下町庶民にはみられない文化的香気のようなものを感じ、三商に入学して先生から英語を教わりたいと憧れた。

昭和十一年二月二十六日、大雪の日に帝都を震撼させた二・二六事件が起り、天皇が信頼した重臣が叛乱軍によって殺された。

同年十二月二十四日、新築成った国会議事堂での議会開院式に臨御される鹵簿（ろぼ）を桜田門付近に整列して拝観した。錦旗を掲げた近衛騎兵を先頭に疾走する馬車の内なる童顔が憂愁を帯びておられ

たように痛く感じた。

昭和十二年四月一日、時計塔に風格を感じる東京府立第三商業学校に入学した。

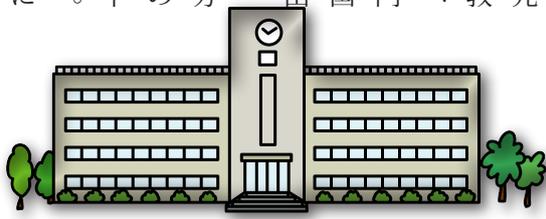
時代は男女共学でなく、軍事教練と銃剣道が正課だった。吉澤教育の一環である冷水摩擦と「歩く」ことで鍛えられた。一年生のときの東京郊外一周遠足を思い出す。未だ都市化されず至る処に林や島があつて野趣に富んでいた。都会の下町っ子にとつては新鮮な体験だった。日本史の先生が同行され神社仏閣の縁起を教わった。柴又帝釈天、新井薬師、松陰神社、目黒不動尊、池上本門寺等。江戸川堤を歩いて行つた国府台の環山荘の林間授業も思い出である。

昭和十五年八月に深川から国分寺へ引越した。東京駅と越中島の間を月に何回かは歩いて登校、下校した。吉澤イズムに感化された。

私が昭和史に興味をもつようになつたのは十五年に出版された満田巖著『昭和風雲録』を読んでからである。第一次世界大戦後のワシントン体制と英米帝国主義の糾弾、ロンドン軍縮会議と国防の危機、農村の疲弊と政治の腐敗、満州事変の世界史的意義、国家革新運動の動向、ナチス・ドイツへの共鳴など、右翼イデオロギーが情熱的な名文で叙述され、軍国少年の血潮をたぎらすものがあつた。

昭和十六年十二月二十八日、大東亜戦争勃発に伴う戦時措置で繰上卒業した。

担任の木村与吉先生の「お前は学課は駄目だが本を読むのが好きだから」というご配慮で朝日新聞印



刷局に事務員として就職した。緒戦の大勝利で日本中が沸いていた時代である。

翌年二月十一日、紀元節の此の日に英領シンガポールが陥落するが社内が緊迫した空気に包まれていた寒い夜、「荻野、元気か」と木村先生が笑いながら輪転機の印刷工場に現れたのには驚いた。上司に「この男は活字が大好きですから面倒を見てやって下さい」と挨拶された。落ちこぼれは涙が流れた。老来、先生の茨城弁が懐かしい。

十七年四月に中島飛行機武蔵製作所へ転職して産業戦士になった。十九年十一月二十四日、サイパン島からB 29の編隊が東京を空襲した。

目標は中島飛行機への爆撃だった。終戦迄に爆撃は九回に及び工場は壊滅した。死者は二二〇名、うち一七名が勤労働員の生徒だった。私はその間は三鷹町の下請へ出向していて難を免れた。

二十年二月二十五日、東京は大雪に見舞われた。昼頃にB 29の大編隊が都心を爆撃した。

その日、私は四国松山の陸軍航空第三教育隊（整備）に入隊すべく夜行列車で東京駅を発った。途中、神田駅に停車した電車から、炎がめらめらと音を立てて夜空を焦し一帯が赤々と燃えているのを見た。松山城下の営門を勇躍して潜った者を待っていたのは戦争末期の退廃した軍隊だった。訓練に燃焼すべくエネルギーは弱者虐めの瑣末な形式主義で消耗した。僅か半年の軍隊生活だったが心が和む出来事もあつた。道後温泉に至る峠の寺に宿営して農繁期の農家を手伝った。割当られたのは人の好い老夫婦と優しい娘さんの三人暮りで、麦刈り、田植への楽しかったこと、畔道で食べた握飯の旨かったこと、並んで見た村芝居で久し振りに笑ったこと。親子の温かい人情は、瀬戸内海の穏やかな風景と共に忘れ難

い。

八月十五日の終戦の玉音放送は高松の栗林公園に近い小学校宿舍の蟬時雨の中で聴いた。小学校へ入学した年に始った満州事変以来の「戦争の児」は、戦争は終わることが出来るものだったのか、という感慨だった。

昭和二十一年三月二十二日、東芝府中工場経理部へ入社して戦後の新しい人生のスタートを切った。創部されたラクビー部にメンバーが足りないからとルールも分らない俣に参加した。食糧不足の時代、空っ腹を抱えシャツと運動靴で駆け回り廻った。今や実業団のトップクラスのチームに成るうとは当時は夢にも思えなかった。

日本国民の多くが敗戦の現実を味わったのは、昭和二十一年五月三日に開廷した極東国際軍事裁判（東京裁判）で、戦争中の首相、大臣、参謀総長、軍司令官などの頭官が戦争犯罪人として被告席に連なっている衝撃的な新聞写真を見てからだ。東京裁判とは何だったのか。「文明の裁き」と「勝者の裁き」が代表的な顔であろう。どちらが優越的であったかといえば「勝者の裁き」であると思う。何故なら原爆投下や都市無差別爆撃など連合国側の戦争犯罪が裁かれなかったからだ。

昭和二十二年五月三日、日本国憲法が施行された。基本的人権、国民主権、平和主義が三原則である。特に眼目の第九条戦争の放棄の条項は戦争体験者として深く感銘した。九条を守ることは日本国民の安全だけではなく、世界史の命題と思う。

三十四年八月二十二日、東京駅発十八時三十分特急「あさかぜ」に乗車して広島営業所へ転動した。未だ戦後十四年に過ぎず広島市内の原爆の傷跡は生々しかった。社宅に被爆してケロイドを負ったお

ばあさんがいて地獄図のような話を聴いた。

一方、政治、経済の分野では「もはや戦後ではない」のスローガンで、高度経済成長政策が推進された。中国地方では瀬戸内海に面した岡山県の石油化学工業を中核とした水島コンビナートが象徴的な存在だった。皇太子妃の御成婚をピークにテレビが急速に家庭に普及した。

昭和三十九年八月に地方勤務を終えて上京する車中から、東海道新幹線が猛スピードで試運転しているのが見えた。五年ぶりの東京は、十月開催のオリンピックをひかえて高速道路が整備され高層ビルが林立し変貌していた。

四十三年十二月十日、東芝府中工場経理部に居て三億円事件に遭遇した。日本信託銀行国分寺支店の現金輸送車が白バイ警官を装った男に「車に爆弾が仕掛けられている。速やかに退去せよ」と言われ、現金三億円が車ごと奪取された。従業員四五〇〇人の約半年分の賞与だった。別の銀行に依頼した分は無事到着した。更に別の銀行の協力を得て賞与は翌日支給された。事件前、近辺の銀行や農協に多額の現金を要求する脅迫状が再三舞い込んでいた。陽動作戦である。そのため輸送担当者も騙されたようだ。時代はキャッシュレスに向かっていたが此の事件を契機に給与賞与の自動振替制度が促進されたのは確かだ。

鶴見工場の社宅に住んでいた四十七年七月のこと。近くに経団連会長の土光敏夫さんの邸があった。東芝の社長時代は社員から畏怖される存在だった。当時は行政改革の推進力として知られていた。ある日、一期一会の念いで門を叩いた。幸い書齋に通されて人生論を伺った。座右銘とされた「日々新たに」の格言を体現者から承ると感銘が深かった。蔵書印

のある『法華経十講』という本を頂いた。

昭和六十年三月三十一日、東芝を定年退職した。生徒のとき簿記をよく理解できなかった劣等生が大企業の経理屋として飯が食べてこられたのは、何といても入社時に三商卒の免状があったからであろう。省みて母校と恩師には感謝の念に堪えない。

昭和六十四年一月七日、昭和天皇崩御。その夜、陛下を哀悼する一文を草し朝日新聞に投稿した。それは平成元年一月十日付の読者欄に載った。

戦中派として禁じ得ぬ敬慕

昭和史の前半は戦争の歴史であった。激動時代の日本の深層では、第一次世界大戦後の英米中心の秩序を排し、政治を革新して武力で東アジアを制覇せんとした陸軍と、明治憲法を順守し、国際協調によって国家の安泰を保持せんとした天皇の軫念（しんねん）との相克対立があった。天皇の平和へのご意志にも拘わらず中国侵略戦争は英米との太平洋戦争に発展して大日本帝国は崩壊した。戦後は新憲法での象徴天皇として荒廃した国土を国民と共に平和国家として再建し、戦死者・戦没者の慰霊を責務となされたことが折々のお言葉からも拝察された。誠実無私であられた昭和天皇を悼み、戦中派の一人として敬慕の念を禁じ得ない。

昭和という時代は世界史のあらゆる事象が詰まっ

ている。戦争、敗戦、占領、植民地支配、テロ、クーデター、革命騒動、そして飢餓から飽食まで。昭和時代の主役は昭和天皇その人である。敗戦の年が明けた昭和二十一年は歌会始の儀式はなかった。しかし、敷島の道の伝統は守られ天皇の御製は新聞に発表された。

松上雪

ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ
松ぞををしき人もかくあれ

(平成二十六年三月一日記)

私の半生記



第19期 中村 三郎

私は三商在学中は性格も暗く内向的で恥ずかしながら学業成績は下から数えたほうが早かったがどうか卒業させてもらった。

後年19期会の懇親会に故八田先生をお招きしたときの席で先生に社労士を記した名刺を差し出し挨拶したが、君のことはよく覚えていて、多分先生は在学中の学業成績を知っているの、あの出来の悪かった生徒だったが名刺を見てか、よく努力したなどのお言葉を頂き嬉しかった。

余談が長くなったが本題に入ることにする。その後どうしたかは割愛するが、サラリーマン生活がスタートし、30歳近くになり総務課に所属していたが、突然上司から衛生管理者(労働安全衛生法により50人以上雇用する事業場で1人以上の管理者を選任し

労働基準監督署に届けるよう規定されている)が欠員になるので資格を取るよう厳命された。俺の頭で合格するのは至難の技、躊躇したが断るわけにいかず、一大決心し勤務のかたわら勉強を始め6か月後に一発で国家試験に合格することができても嬉しかった。前任者の定年退職に伴い早速私の名前で労働基準監督署に選任届けを提出したが、労働基準監督官から職務内容の説明があり、責任の重さを痛感したことが今でも忘れられない。ダメ人間と思いついていた私が国家試験の合格で、それからの生き方に大きな自信となった。

しばらく経った昭和40年ごろ「社会保険労務士」の法制化が国会を通過したことを知り、5年ほど勉強すれば何とかなる様な気がしたので会社には一切内緒で勉強を開始した。昭和44年の国家試験に合格した時は、まさに飛び上がりたぐらい嬉しく名前が官報に搭載され合格を実感した。合格率は当時も今も8%~9%の由。三商での不勉強の罪滅ぼしのできたと思うが如何でしょうか。

この頃世の中はバブル景気に浮かれ不動産屋が雨後の筍のように出現したが、勤務する会社は業績が一向に良くなり定款に不動産業を加え兼業しようとして銀行の支店長上がりの専務が言い出し他の役員も無責任にもなびいてしまった。外部から「宅地建物取引主任者」を採用する余裕がないものだから、またまた私に資格を取るようにと厳命された。資金力と即断力に欠ける会社ですから遠回しに無理ではないですかと進言するも突き進むことになった。通常勤務のかたわら授業料は会社が負担したが、当時不動産関係の予備校があり10か月通学し毎夜遅くまで学習し秋の国家試験に臨み落ちたら迷惑をかけるなと思うと、大変苦しく胃痛の毎日だった。落ちたら

退職をもって責任を果たす覚悟だった。一発で合格できた喜びはあまりなかった。宅地建物取引業の免許手続きを急がされ、通常は行政書士に報酬を支払って書類作成を依頼するのが常道だが、専務は経費節減だ、君がすべてやれ、分らない点は手助けするとの言葉はあったが、ついぞ頼りにならずすべて私が当時はまだ複写機もPCもない時代すべて手書きで免許申請を東京都知事あて提出し受理された時はほっとした。ほどなく免許が下り営業活動に入るが資金力、即弾力もないから商売にならず、まさに看板倒れの3年が経過し実績がないため免許取り消しとなった。それから複雑な供託金の取り戻す作業を進めるが、さんざん利用されたことの不満と不信感が増幅し後年の退職の引き金となる。

気持がやや落ち着いた頃、三商を卒業したのに恥ずかしながら簿記の借方貸方がわからないので独学で勉強を始めれば1年で商工会議所の3級・2級を取得できもう少し上を狙うべくほっとしたところで横浜港への転勤となり、往復4時間余の通勤となり勉強の時間が取れなくなり諦めざるを得なかったことは今でも残念に思っている。

その頃年齢も50歳近くになり知人を訪ね再就職先をお願ひし、勤務はそのまま続け1年ほど待ったところで、旧労働省の外郭団体に就職することができ「社会保険労務士」の資格を活かし充実した勤務ができたことは喜びであり、デスクにおいては災害防止の企画立案を進め現場においては全国には約80港の指定港があるが約半数の港を巡回して災害防止を呼びかける活動ができたことは私の性格にぴったり仕事であり、サラリーマン生活晩年において幸せなことだ65歳の定年まで勤務した。

それについても紹介していただいた知人のご恩を

忘れることができない。

因みに「社会保険労務士（略称は社労士）」は弁護士、税理士等と同様独立して開業する道もあるが私はあえてその道は選ばなかった。三商の後輩のみなさんで将来の展望を見失い、もんもんとしている方がいらつしやったら資格万能とは思わぬが、少し難しい国家資格「士」の付く資格に挑戦し取得することで自信を取り戻すことができ、良い道が拓くのではないだろうか。老婆心ながら体験を申し上げます。稿を終わりとします。

追記 教師は学業成績のもつともよい生徒と、反対に出来の悪い生徒の記憶はあるようだ。小学校時代の恩師が房州の大きな神社の宮司を努めていることがわかり先年小学時代の旧友に呼びかけ5〜6人でお訪ねする機会があった。なにしろ約60年ぶりの再会だったが、最も学業成績の良かったK君と学業成績の悪かった私をよく覚えていて、他の者は恩師の記憶にはないようでした。ご自宅の結婚式場の大広間に全員で泊めていただき、正に飲み放題の宴席だった。その恩師も数年前他界してしまった。



セカンドライフ第二ステージを
我が儘に楽しむ

第29期 大川 幹雄

気持ちだけはいつまでも若いつもりでいたが一昨年に古稀の歳となった。社会人としてのスタートから承らるる勤務先を定年後、気力・体力・知力維持を心掛けての勤務先も三つ目になるなど職場遍歴を重ね、徐々に勤務日を減らして自由な時間をそれなりに確保してきた。自己流であるが、定年後の生活を体力および勤務への気力集中度等を物差しとして

段階分けしてみた。

定年後の六十歳代は体力もあり夫婦での年十回ほどの国内外旅行を楽しむ金銭的余裕が頭にあり、勤務意図に多少の収入稼ぎが密かにあつたので、これを第一ステージとした。古稀となつてからは健康保険でも高齢者扱いになり、年代相当の生活変化により遊びの経費が減り、主にお世話になつた業界、会社、団体等への報恩、気力維持および社会との繋がり確保を目的とした、いわば奉仕意図であり、第二ステージと自分では認識している。

思えば我が世代は戦中生まれで、身体の出来るころに食糧不足、社会人になると戦後復興の担い手とおだてられ、CMでは「二四時間ビジネスマン」「会社人間」と揶揄される勤務生活が続け、最近ではマインナスな意味での「典型的な団塊の世代」といわれ、報道ではこれからの社会問題として、「年金・介護」の重荷となる金食い虫的な世代と例示されるなど、まだまだ人生を楽しみたいのに最近肩身の狭い世代である。

振り返るとビール会社勤務を六二歳まで続け、退職直前にその後の生活を考えているうちに、公私にお世話になる方達から、ソフトランディングのためにと、2つの会社や団体から役員・顧問に迎えられ、あまり業績貢献の少ない気ままを続けてきた。

勤務を続け六〇歳代後半になる頃に社会環境の変化並びに世代間の意見の違い等もあり、それぞれの業界から身を引くタイミングかなとの思いで、少しずつ責任のない業務を選び静かに身を引き、私的な自由の効く生活確保に向けて取り組んできた。しかしながらいよいよその団体等と縁が切れるその都度、親しい人から次のステージを用意され、新たな難問を抱え込むなどして、なかなか気儘な生活を迎えるそ

うになつたのが第一ステージであつた。第二ステージの最近では段々と個人の我が儘を通すようにして、会合及び事業検討の参加に限らせていただいているが、いつまでも全力で支援を続けて欲しいとの期待の団体幹部から、不満を聞くのが悩みである。東京府小石川区生まれ、五歳からの深川育ちでヒトシが明確区別できず、ワープロ時代には自分としては正しく入力したつもりが正しく漢字転換できず、勤務先の若い世代に尋ねるとかな文字入力の違いを笑われるなど、典型的江戸っ子を自負している。子供が幼い頃に転勤族の片割れとして関西、九州博多で長期間生活、酒類営業担当としての仕事柄、イベントがあれば手伝いを頼まれることも多く、家族との約束を飛ばしての土日出勤が多かつた。その中でも家族で暇を工夫しては関西では有名寺社仏閣まわり、九州では温泉や観光地巡りでストレス解消に努めた。

長らくの会社の定年三年前に、会社人間が自由時間の多い第二の人生向かうための「定年後のライフセミネー」に、夫婦での沖縄研修会に参加、「セカンドライフ三要素」なるものについてタツプリ研修を受けた。最大の要素である「カネ」についても指導を受けたが、これは人によりそれぞれ事情が異なるので記述は避け、次の要素の「体力維持」はまず足腰の維持が肝要と教わり、現在も日常的に努めている。二十年ほど前の東京凱旋時に購入した現在地は、近代都市にもかかわらず近隣に神奈川県水源地を中心に季節の花のほかに、時にはカワセミ・ホタルを楽しめる大規模公園があり、勤務のない日は朝飯後に公園、午後から遠くへ買物を兼ねて連日早足ウォーキングを行い、お陰で年代相当の体力維持ができています。

セカンドライフ要素三つ目の「生甲斐」その①…知友人、夫婦、ファミリー等との懇親並びに旅行を心掛け、夫婦で全国リゾートホテルチェーン会員となり、全国二六ヶ所のチェーン踏破を目指し八年ほど過ぎたが未だ遠隔地で達成できない。「子孫に美田を残さず」の信条で、孫との絆を深めるためと生活に追われる子供二家族の楽しい思い出作りの応援の思いで旧盆国内外旅行を継続している。最近新たな関わりとして、お世話になりながら失礼を重ねた地元社会との関係作り、十数年前に見送った岳父が残した複数一眼レフ機を引っ張り出しての写真紀行を展開中である。

「生甲斐」その②…複数の団体での役員を務め、関わる団体で経験豊富な先輩ならびに若い世代から活力を分けていただいている。第一ステージの頃はどうしても経験豊富な年配者のつもりで、現代の社会変化を先読みして、時には過去の知識・経験等を活かす提案を行い勝ちであったが、最近はお出ただけ自制に努めるよう努力している。会合の席上でも社会環境の変化に敏感な若い世代、時に厳しい指摘の貴重な意見を出していただく先輩諸氏などの少数派構成員の声を引き出すように心掛けています。このあたりの心配りが歓迎されてか、気ままな我が身に過ぎたる多くの優れた先輩知人友人に恵まれ、常にご支援、激励をいただきながら活動を続けられることに深く感謝、お陰で元氣なうちは公私の生活でお邪魔虫にならないでいけそうである。



大川氏 千畳敷カールにて

論語とソロバン (算盤) —
 渋沢栄一に学ぶ 企業と社会的責任

第22期 荻野 弘康

平成24年の衆議院選挙で民主党から自民党中心の政権交代が行われ、安倍内閣は、経済再生、震災復興、外交安全保障の三本の柱を掲げてスタートしている。

国民生活の向上に期待したいところであるが、経済活動の国際化、産業構造の技術革新等に伴う劇的な進化やこれに伴う、かねてから危惧されていた生産の無政府性(マルクスが指摘していた)による経済混乱があり、パナソニックやシャープなども世界的な市場で打撃を受けている。(身近な例では、30万円台のテレビがわずかの期間に3万円を切るという事例あり)

2013年3月卒業予定の大学生55万人のうち、11万人が未就職状況であるというし、非正規雇用者も千八百万人を超え、生活保護者世帯も増え続け二百万人以上となっている。

さらに、就業者の内年収二百万円未満が千百万人であるという、相対的に就業者の生活向上は、経済再生にとっても重要な課題である。

国家、国政が取り組むのは当然のことであるが、会社組織も(株式会社)、経営の成果を求めつつ、社員、就業者との共存共栄を目指していかなければならないのである。

我が国最初の「株式会社」商法会所を立ち上げた渋沢栄一が日本の資本主義であることは、その数々の業績からして異論の余地はあるまい。

「この商法会所は今日で申せば株式会社みたいな

もので、静岡藩の借入金と民間の資金を寄せ集め、いわゆる合本組織として経営することになったのであるが、恐らく之が我が国に於ける合本組織の会社が出来た嚆矢(物事のはじめ)であると思ふ」と記述されている。(1)

1. 鹿島茂『渋沢栄一』(文藝春秋、平成23年)

嚆矢…昔中国で、開戦の合図に嚆矢(かぶら)を射たのでいう(三省堂編修所編『新小辞林』)

三商会計人会副会長
 中央大学会計人会会長

平成26年4月5日初版(法人税法の理論と実務)
 — 第一法規出版 —

エッセイ等寄稿文募集

— 会報編集部では、同窓生の皆様から広く寄稿文を募集しております。 —

エッセイ(随筆)・旅行記・俳句、短歌などの文学作品・学生時代の思い出など、ジャンルは問いません。また、筆者近影や文章にちなんだ写真などをご同封いただければ、文章とともに掲載いたします。

— 募集要項(来年度発行分) —

締切 平成27年5月末(目安)

①直筆原稿—同窓会事務局へ郵送またはファックスでお送りください。

②データ原稿—同窓会ホームページのお問い合わせよりご送信下さい。

ご郵送物で、返却希望の場合その旨をお書き添えください。

※内容により、掲載を見合わず場合があります、ご了承ください。

表紙の絵 水上健二氏作品

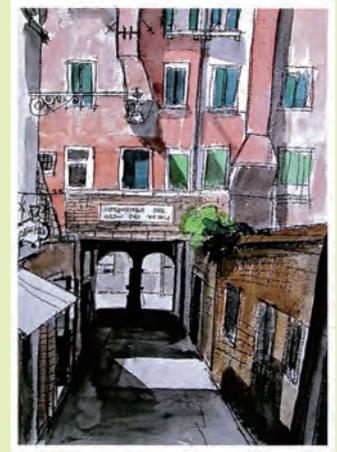
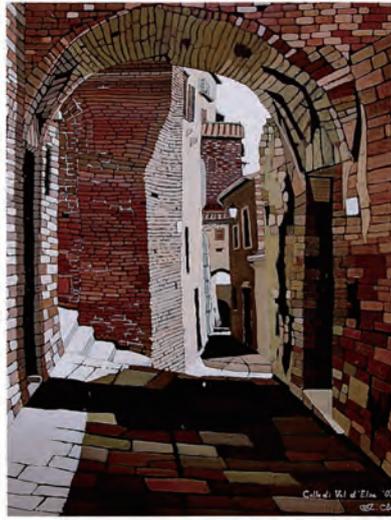
—画歴—

1982年山手線大崎にある彫刻家齋藤信也氏主宰のクロッキー会「幻羊塾」に入塾してから、絵の世界へと入る。32年経つ今もクロッキー会を続け、このメンバーで始めた羊展も31回を数える。

2000年に個展を銀座高野画廊で開いたのを皮切りに、個展、二人展など精力的に作品を発表している。

1986年から出品し続ける群炎美術協会では事務局長を務める傍ら、2004年には「城塞の見える街角（南仏エスタン）」にて群炎大賞を受賞した。今年も第53回展を東京都美術館で開催予定。一昨年1月にはイランとの交流展を開き、現地二か所の美術館で会員の作品を展示し、二国間の文化交流に貢献した。

イタリアのトスカナ地方にあるコッレ・ヴェル・デ・エルサと言う静かで小さな街。日本人の女性と結婚されたイタリア人男性から、故郷の絵画を見て大変感懐したと奥様から連絡をもらい、思わぬ交流のきっかけになった作品。



表紙の絵と共に描かれたヴェネチアの街並み
4人の仲間との取材旅行に出向き、滞在10日間に70枚ものスケッチを描いたものから油彩作品に仕上げている



(左) 南仏の町全体が絵葉書のようなエスタンの教会。水彩



(右) 『古い階段のある家』南イタリアにある、美しい迷宮の街チステルニーニョにて

ホームページ紹介

同窓会ホームページは <http://tcsaa.jp/> または

都立三商

検索

現在人気のコーナー

酒場放浪記

BS-TBSで放送されている、本家「酒場放浪記」にあやかり、ホームページ委員と有志の人達で、毎回三商同窓生が経営する飲食店へ出かけます。

訪ねたお店で、同窓生の方に自慢のメニューや今までの苦労話などを取材するコーナーです。

本家ご出演の吉田 類さんに負けないぐらいお酒の好きな面々が、飲んで食べて騒いでいるだけと言う噂もありますが、三商の仲間が各所で頑張っているんだよ・・・と言う情報は発信できているのだと思います。(ちなみに飲食費は毎回自腹で行っております。随分安くしてもらっていますが・・・)

このコーナーでは、訪ねる同窓生のお店と、一緒に参加していただける有志の方を募集しております。 どちらもホームページのお問い合わせ欄からご連絡ください。お待ちしております。



校歌

作詞 前田 夕暮
作曲 山田 耕筈
編曲 脇 則之

都の空は明けたり今
希望は燃ゆる若きわれら
都立第三商業、ここに拠るや
日本の富を担ふわれら

富岳の雪を望む窓辺
理想は高し 若きわれら
都立第三商業、ここに居るや
都の栄えを築くわれら

東都の海の門にありて
心は潤し 若きわれら
都立第三商業、ここに立つや
江戸の誇りを継げるわれら

応援歌

作詞 多田 宏
作曲 池内友次郎
編曲 青山 政憲

見よ、三商の旗じるし
T・C・Sの行くところ
旭日洗ふ波がしら
こころに刻む若人の

勝算すでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れ！)

聞け、三商の底ぢから
T・C・Sのはた風は
歴史が語るその誉れ
受け継ぎ来たる若人の

命の誇り吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れ！)

見よ、三商の鉄の陣
T・C・Sの旗の下
正義に結ぶ和のこころ
明るく強き若人の

凱歌はすでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商
(ふれっ・ふれっ・振れ！)

編集後記

広報委員長 第22期 篠崎 清

今期より前任の伊澤君が退任いたしましたので私にバトンタッチされたわけですがお引き受けしたからには力不足ではございますが、少しでも同窓会のお役にたてるよう努力したいと思っております。

現在、広報委員会には大きく分けて二つの委員会が活動しております。

① 33期の佐久間保人君を委員長として活躍しております。H/P委員会は毎月更新のため多忙を極めております。しかし会員さんからの投稿をお願いしておりますがまだまだ少なく原稿不足が続いておりますので各期の幹事さんがクラス会の様子とかゴルフ会の結果とかなんでも結構ですのでお知らせくださるようお願いいたします。ただいまの一番人気は(三商酒場放浪記)です。是非ともご覧になってみてください。

② 49期の岩瀬茂幸君を委員長とした同窓会報委員会でございます。この委員会は毎年1回7月発行の同窓会報に同窓生の皆さんから寄せられる小論文から皆さんの身近に起きた出来事までを編集し立派な会報を完成させるまでの作業を一手に引受けて手際よく活躍されましたが彼は印刷関係に携わっておりますので成程と感心しつつ、これからも期待しております。

以上両君をはじめとして関係の委員の皆さんの努力を無にしない為にも未永く同窓会のためにお力をお貸しくださる事を改めてお願いいたします。

三商同窓会報第五十三号

平成二十六年七月一日発行

発行者

発行責任者

編集者

都立第三商業高等学校同窓会

三商同窓会 広報委員会

東京都墨田区業平一の一十七の五

都立三商同窓会事務局

杉本 光男

電話 〇三(三六三三)二二八五

FAX 〇三(三六三三)一八五九

印刷所

株式会社 エーエム

夢をかたちに・・・



中外徽章株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-2

TEL:03-3294-3431 FAX:03-3294-3436

<http://www.chugaikisyo.co.jp>

相談役 古田 勝一 (第26期)



都立三商同窓会「初」の女性会長
第7代 岩瀬 和子 同窓会長

祝 都立第三商業
校舎改装完成

「生涯青春で有り続けたい」との願いから、第26期は
毎年同期会を開催しております。

第26期 同期会会長 古田 勝一